

学内広報

for communication across the UT



ヒラリー・クリントン米国国務長官、来学（11 ページに関連記事）

特集：本郷地区、自転車・バイク利用の
改善施策の実施へ（駐輪有料化へ）

2009.3.13

No. 1384

本郷地区、自転車・バイク利用の改善施策の実施へ

特集

本郷キャンパスでは、これまで駐輪場の整備計画の立案、駐輪スペースの拡大、自転車・バイクの登録制度の導入、さらに駐輪自転車の整理作業の導入など、自転車・バイクの利用環境の改善に努めてきたところです。しかしながら、自転車・バイクの登録率は依然として高いとはいえず、未登録の自転車・バイクの放置など不適切な駐輪も問題となっており、駐輪環境の改善は今後も継続的に取り組むことが必要な状況となっています。

このような状況の下、当専門部会は自転車・バイクの構内利用に対して、登録の際に利用負担金を徴収し、自転車・バイク利用環境の改善、車両の管理体制の強化及び不適切な駐輪の防止等の推進費用の一部にあてる方策を、自動車入構の有料化等とあわせ、「本郷地区キャンパスにおける交通改善の基本方針」として提案してきました。この「基本方針」は、学内の役員会(平成18年3月17日)により承認され、以後今日まで、その個々の具体的方策を検討し、逐次実施に移してきたところです(自動車入構の有料化は、平成20年4月より実施)。

本年4月より
スタート!!

「施策のポイント」

(1) 自転車・バイク利用の登録有料化と駐輪場整備を行います！

自転車・バイクの利用環境の改善と不適切な駐輪の防止策等を実施するため、その費用の一部を利用者が負担することとし、平成21年4月より、学内者等の構内での自転車・バイクの利用を有料化します。なお、自転車・バイクの駐輪スペースについては、各部署の協力のもとに有料化の実施までに必要な整備を行います。

(2) 駐輪状況を改善します！

未登録の自転車・バイク、構内を車庫代わりに使用するケースや駐輪場以外の場所に繰り返し駐輪するなどといった不適切な駐輪を行っているバイク・自転車に対して、警告と施錠措置(*)を強化します。なお、悪質な行為を繰り返し行う利用者からは、利用負担金を上乗せして徴収する場合があります。

(*) 現在、不適切な駐輪に対しては、定期的な警告書貼付(1日あたりキャンパスの3分の1程度を対象として、交通監視員が自動車と自転車・バイクのチェックを同時に実施)を行っています。また、放置自転車・バイクの廃棄措置を年に2回実施しています。



「具体的な実施方策」

(1) 対象者及び対象車両について

対象者: 学生等、教職員等(本学に営業所を保有する業者・関係者(配達や来訪者は対象外)を含む)

対象車両: 自転車、バイク(東京大学本郷構内交通規則第4条の2の条件を満たすもの)

(2) 許可証の種類と料金

自転車駐輪許可証



利用負担金(教職員等)2,500円/年
(学生等)1,000円/年

バイク駐車許可証



利用負担金: 15,000円/年

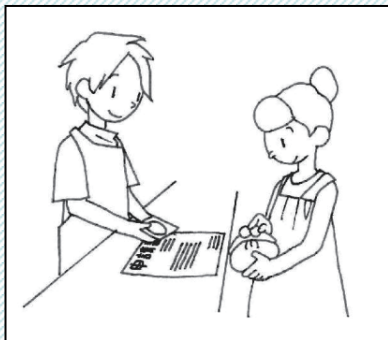


(3) 許可証の申請手順について

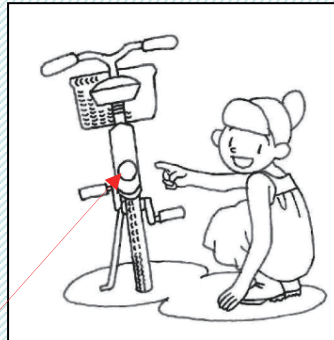
許可証の申請: 4月1日～ 許可証の発行: 4月1日～

自転車駐輪許可証

バイク駐車許可証



申請書に必要事項を記入後、取扱店で利用負担金を支払い、利用登録シールを受け取る！※1、2、3



自転車・バイクの後ろの見やすいところに利用登録シールを貼る！



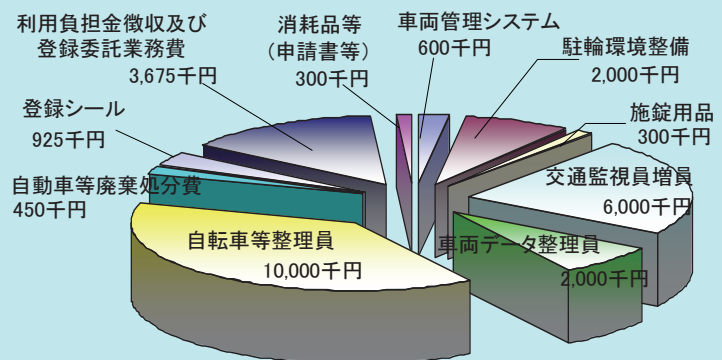
駐輪場に正しく駐輪する！

- ※1 バイクの利用許可は、申請時に本部で厳格な審査を行い、認められた場合のみ登録手続きが可能となります。
- ※2 利用負担金を支払う際に、学生証又は職員証の提示をしていただきます。
- ※3 取扱店は2店舗の予定です。

(4) 収支計画について

利用負担金の使途について

皆様からお預かりした利用負担金(14,250千円)及び大学負担金(12,000千円)を、施設・設備整備費として、車両管理システム(600千円/年、償還期間5年、下図参照)、駐輪環境整備(2,000千円)、施錠用品(300千円)、運営・維持管理費等として交通監視員増員(6,000千円)、車両データ整理員(2,000千円)、自転車等整理員(10,000千円)、自転車等廃棄処分費(450千円)、登録シール(925千円)、利用負担金徴収及び登録委託業務費(3,675千円)、消耗品等(申請書等、300千円)に使用します(右図参照)。



収入26,250千円 (利用負担金+大学負担金) (見込み額)

車両管理システムの概要

- モバイル端末で、違反車両に貼り付けられている2次元コードをスキャンして読み込み、未登録車両の場合はナンバープレート、防犯登録シール等を入力します。
- 違反履歴や登録車両マスターデータなどをモバイル端末画面に表示します。
- 違反状態の画像を撮影します。
- 作業(収集)結果をPCへアップロードします。



モバイル端末



2次元コード、防犯登録シール、ナンバープレート

(5)駐輪状況の改善方策について

平成21年6月以降(4月～5月は登録期間)、①未登録自転車・バイク、②不適切な駐輪自転車・バイクに対して次の措置を実施します。

① 未登録自転車・バイクに対する措置

所定の期間中(毎月1週間程度を予定)の毎日、キャンパス内全域を対象として、駐輪自転車・バイクの登録状況をチェックし、未登録車両に警告書を貼付します(同時に防犯登録ナンバーや車両ナンバーなどを記録します)。未登録車両のチェックは交通監視員等を増員して実施します。

警告書貼付から1週間以上経っても、依然として未登録の車両はチェーンにより施錠します。利用者から解錠依頼があった場合は、利用者が登録及び利用負担金支払い手続きを行ったことを確認の上で解錠します。解錠は本部施設・資産系環境グループが平日9時～18時(12時～13時を除く)の間で行います。悪質な場合には、所定の金額を上乗せした利用負担金を徴収することもあります。また、所定の時期(自転車・バイク廃棄期間)までに解錠依頼がない場合は車両を廃棄します。

② 不適切な駐輪を行っている自転車・バイクに対する措置

所定の期間中(毎月1週間程度を予定)の毎日、キャンパス内全域を対象として、構内を車庫代わり使用しているケースや駐輪場外に駐輪しているなど、不適切な駐輪車両をチェックし、そのような自転車・バイクに対して警告書を貼付します(同時に防犯登録ナンバーや車両ナンバーなどを記録します)。不適切な駐輪車両のチェックは交通監視員等を増員して実施します。

不適切な駐輪を繰り返す車両はチェーンにより施錠します。利用者から解錠依頼があった場合は、本部施設・資産系環境グループが平日9時～18時(12時～13時を除く)の間で行います。悪質な場合には、再登録の手続きが必要となることもあります。また、所定の時期(自転車・バイク廃棄期間)までに解錠依頼がない場合は廃棄またはリユースを実施します。

③ 学外者の自転車・バイク利用に対する措置

来訪者用駐輪スペースを所定の場所に整備する。同時に、例えば通勤等の目的による地下鉄出口付近の構内駐輪などといった、学外者による不適切な駐輪の防止を図るため、交通監視員等による管理を強化します。



※デザインは変更される場合があります。

④ 自転車・バイク駐輪スペースの継続的改善

基本的に必要と考えられる自転車・バイクの駐輪スペースについては、各局の協力のもとに、平成21年3月までに整備を行います。その後も、必要に応じて引き続き駐輪環境の充実、改善を図ります。

■「本郷地区キャンパスにおける自転車・バイク利用の登録有料化の提案」(原案)に対するパブリックコメントの実施(H20.11.4～11.14)を行い、皆様より多くのご意見をいただきました。ここで、皆様よりいただいたご意見についてお答えします。

★Q&A



(1) Q: 自転車・バイク駐輪場の整備と不適切な駐輪防止に必要な費用は、大学が負担すべきではないですか？

A: 駐輪場の環境改善と不適切な駐輪防止による快適な構内環境の整備に必要な費用は、大学も負担致しますが、費用の一部を自転車・バイク利用者の皆様にも負担して頂くために有料化を提案させて頂いております。

(2) Q: 有料化により自転車を抑制せずに、環境にやさしい自転車の利用をむしろ推進すべきではないですか？

A: 自転車は、自動車やバイク等と比較して環境にやさしい交通手段であると考えられますが、構内で駐輪場が不足している現状と、新たに整備可能な駐輪場の容量も限られていることから、むやみに推進すべきではないと考えております。そこで、有料化によって利用頻度の著しく低い自転車を削減することも意図しております。

(3) Q: 不適切な駐輪を行う悪質者に対する支出を善良者が負担するという論理は納得できません。

A: 支出は、悪質者の不適切な駐輪防止に対する費用だけではなく、駐輪場の環境改善費用が含まれますので、利用者全員に負担して頂くことを原則としております。しかし、悪質者には、別途記述するように、事実上のペナルティを導入することを考えております。

(4) Q:登録料も支出も高額であり、どちらも減額できるのではないですか？

A:収支計画の見直しを行いました(「収支計画」参照)。導入予定の自転車・バイク登録および車両管理システムについては、5年で償還することとし、初年度より駐輪場の環境改善を進めることと致しました。また、登録シールについても見直しを図りました。支出の見直しにより、自転車利用負担金については、学生等を1,000円/年、教職員等を2,500円/年、バイク利用負担金については、一律15,000円/年とさせて頂きました。

(5) Q:通勤手当が支給されていない自転車・バイク利用者の登録料について検討して下さい(例えば、通勤・通学・業務用の自転車・バイクについては登録料無料、保育園の送迎に利用する場合への配慮など)。

A:現在、通勤手当は通勤距離が2キロ未満の方には支給されていませんが、これは2キロ未満は徒歩で通勤することが原則であるという考え方によるものです。この原則に基づいて、学内関係者(教職員・学生・本学に営業所を保有する業者・関係者)からは、通勤手当支給の有無にかかわらず、一律の利用負担金を徴収することと致します。

(6) Q:まず、必要量の駐輪場を整備した上で、取り締りの強化等をしていくべきではないでしょうか？

A:この度、必要かつ適切な駐輪場の数と場所を検討致しましたので、各部局の協力を得ながら今年度内に整備を完了する予定です。また、放置自転車の処分も継続して行うことで、駐輪スペースを有効に活用致します。より充実した駐輪環境を維持していくために、継続的な努力をしていく予定です。

(7) Q:現状でさえ登録率が高くない状況で有料化すれば、より登録率が低下するのではないのでしょうか？

A:再三の警告にもかかわらず登録を行わない利用者には、自転車・バイクに施錠を行い、解錠時に登録して頂くとともに、より高額の利用負担金を支払って頂く場合もあります。また、駐輪場以外への不適切な駐輪に対しては、所定回数を超えて登録取り消し、再登録をして頂きます。以上のように、未登録を防止するとともに、悪質な行為に対しては、厳しく対応していきます。

(8) Q:未登録の学内関係者の自転車・バイクと、来訪者の自転車・バイクとを判別することが難しいため、未登録の学内関係者の取り締まりを適切に行えないのではないのでしょうか？

A:未登録の学内関係者の自転車・バイクと、来訪者の自転車・バイクとを判別することは、技術的に難しいと考えられます。想定される問題として、以下の2点が考えられます。

①キャンパス内の駐輪場に、学外者がキャンパス来訪目的以外の目的で駐輪してしまうケース(例えば東大前駅利用者の農学部門付近駐輪場への駐輪等)。

②学内関係者が未登録のまま来訪者用駐輪場に駐輪し続けるケース。

これらに対する対策として、まず、学内関係者用駐輪場と来訪者用駐輪場が区別されていること、およびキャンパス来訪以外の目的での駐輪を禁止する旨を看板等により周知徹底します。その上で、未登録の自転車・バイクについては、防犯登録番号や車両番号等を控え、常時使用していると思われる利用者に対して身分照会を行い、学内関係者と認められた場合は登録をして頂き、キャンパス来訪目的以外の学外者の駐輪と認められた場合には厳重注意を行います。

(9) Q:未登録の学内関係者が、構外の道路上等へ違法駐輪してしまうケースが発生するのではないのでしょうか？

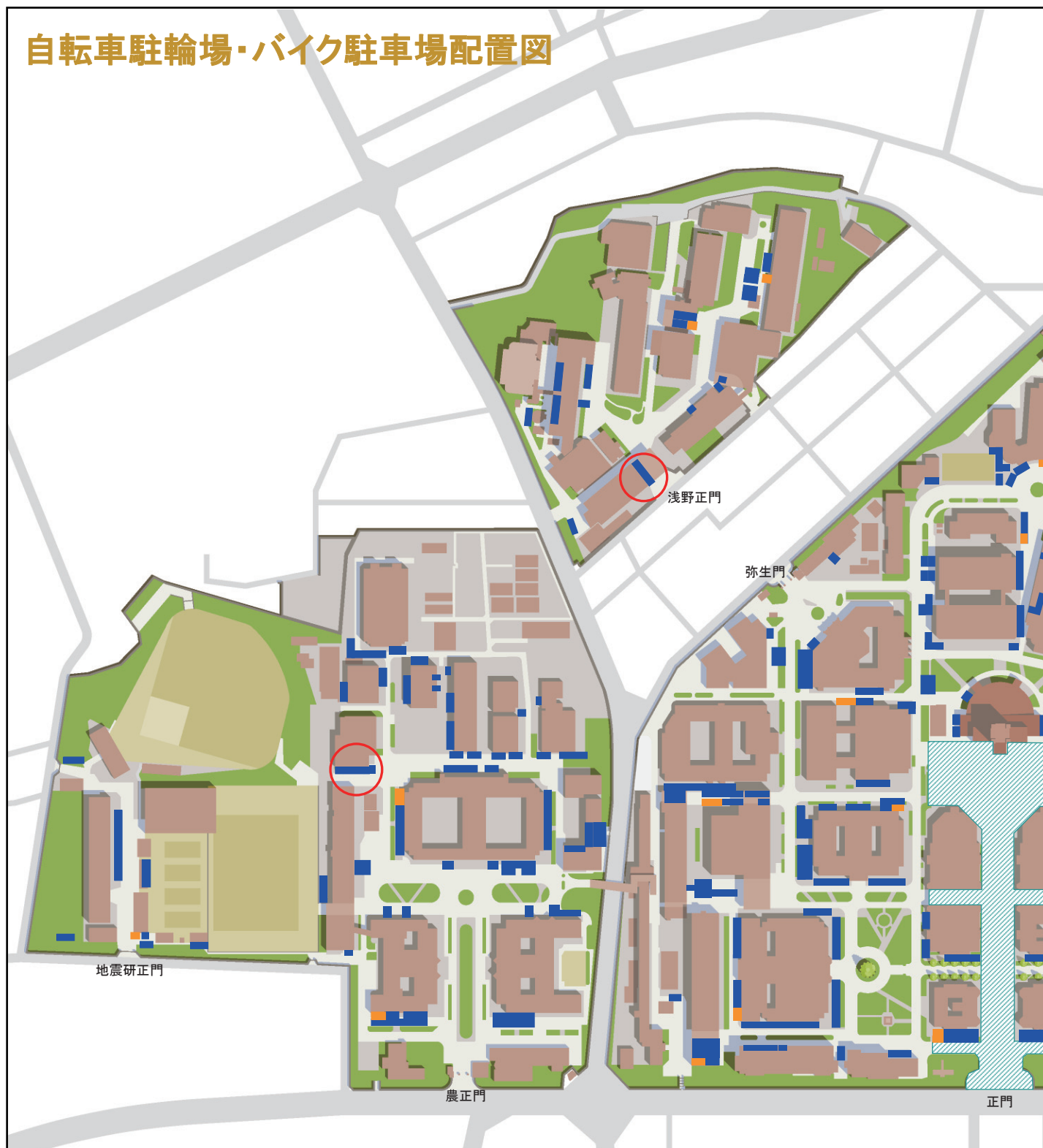
A:構外の道路上等への違法駐輪は、警察など学外者が管理することになりますが、監視員は構外の道路上等も見回ることと致します。

(10) Q:学外者から、東京大学所属であると判別できない登録シールにして下さい。

A:学外者から、東京大学所属であることが判断しにくい登録シールのデザインを検討致しました(「許可証の種類と料金」参照)。

以上

自転車駐輪場・バイク駐車場配置図



■駐輪場の利用について

自転車・バイクを利用される方は、必ず所定の駐輪スペース(上図参照)を利用してください。

自転車とバイクの駐輪スペースを明確に区分し、利用しやすい駐輪スペースを計画しています。また、来訪者用駐輪スペースを所定の場所に整備します。駐輪スペースは、サイン、白線引き等により表示をしております。

基本的に必要と考えられる自転車・バイクの駐輪スペースについては、有料化実施までに整備を行います。その後も、必要に応じて引き続き駐輪環境の充実、改善を図ります。

快適なキャンパス環境を創出するためにも、決められたスペースに正しく駐輪しましょう。





ご不明な点に対するご質問や交通問題や交通施策に対するご意見は、本部環境グループ環境企画チームまで、ご遠慮なくお寄せください。

《問い合わせ先》

本部環境グループ環境企画チームまたは交通管理チーム
 電話番号: 03-5841-2255または0318 (内線: 22255または20318)
 E-mail : kankyokikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



NEWS

一般ニュース

本部総務グループ

平成 21 年度 学科・専攻の設置について

工学部・大学院工学系研究科 機械系二学科・二専攻の統合について

現在、機械工学および産業機械工学に分かれている機械系学科・専攻を平成 21 年 4 月 1 日に統合し、工学部・機械工学科、工学系研究科・機械工学専攻とする。

なお、学位の変更及び学生定員の増減は行わない。

【統合の狙い】

社会基盤たる科学技術の中で主に産業を支える工学においては、これまで学科・専攻の専門化・細分化によって多様化する社会要請にできてきた。一方、90 年代の経済の停滞を機に我が国は「科学技術創造立国」を標榜し、「分野融合型先端科学技術による新産業創出」政策を展開している。機械工学においても、「バイオ・医療」、「環境・エネルギー」、「ナノテクノロジー」などの重点先端分野を中心に研究分野を拡大するとともに、先端ものづくり産業をリードできる独創性と発想力に優れた高度専門技術人材の育成に取り組んでいる。

本統合は、これらの社会・産業のニーズに対応すべく従来の枠を越えてイノベーションの創造に寄与できる教育・研究を推進する体制を整えるものである。

【学部教育課程の編成と養成する人材像】

(1) 講義は、機械工学の基礎である 4 力学（機械力学、熱力学、流体力学、材料力学）に設計生産工学、制御工学を加えた科目で構成する。(2) 第 3 学年において、ものづくりを実践的に体験する実験・演習科目を編成する。

(3) 第 4 学年において総仕上げ学部実践教育としての卒業研究を課す。以上の教育課程により、新産業創出を可能とする実践力のある機械工学技術者を育成する。

【大学院教育課程の編成と養成する人材像】

(1) カリキュラムは、高度専門共通基盤科目と、応用 5 分野（固体・材料、熱・流体、機械力学・制御、設計・生産、バイオ・医療）で編成し、主・副分野を意識した専門分野の選択を行う。(2) 先端技術分野における創造活動として学位論文（修士論文、博士論文）研究を課し、研究の実践を通して高度なコンピテンシーを備えた研究者・技術者を育成する。

海洋アライアンス

海の魅力を伝える「出前授業」がスタート！

本学の機構である“海洋アライアンス”では、海に関する教育の一環として、海洋アライアンスの教員が講師として小学校や中学校、高等学校などに出向き、授業をする活動を開始した。

この出前授業は、海洋の管理と持続的な利用、地球温暖化といった地球的課題や、海洋の食料やエネルギーなどの資源に関する国内の課題について、最前線の研究内容をわかりやすく講義し、海の魅力を小学生や中学生、高校生に伝えるためのプログラムとなっている。

1 月 21 日（水）に、神奈川県二宮西中学校で実施された第 1 回目の出前授業では、海洋アライアンスの福島朋彦特任准教授が「沖ノ鳥島から学ぼう」と題し、中学 1 年生 132 名を対象に授業を行った。北緯 20 度と、ハワイと同じくらい南に位置する沖ノ鳥島の現状をはじめ、海に関する最新の話についてクイズ形式を交えて紹介する内容であった。

生徒からは、「初めて知る内容が多くてためになった」「新しい話なので刺激を受けた」、といった反応があったという。また、授業を申し込んだ二宮西中学校の穴久保先生は、「出前授業は生徒にとってプラスになった。また、海に注目するきっかけを作る効果は大きいと思う。次回は、海中ロボットなどの題材で出前授業を申し込もうかと考えている。」と述べている。



クイズ形式の授業に参加する中学生たちの様子

東京大学海洋アライアンスでは、出前授業の受け入れを希望される小中高等学校からのお申し込みを、現在ホームページ <http://www.oa.u-tokyo.ac.jp> で受け付けています。具体的な講義の内容は、海の生き物、海中ロボット、海底資源など、いろいろなメニューから選択して頂くことが可能です。詳しいプログラムの内容や、申し込み方法などは、東京大学海洋アライアンスのホームページをご参照ください。

地球観測データ統合連携研究機構 (EDITORIA)

第4回アジア水循環イニシアティブ (AWCI) 会合 (京都) 開催

一般

2月6日(金)、7日(土)と、第4回 GEOSS (複数のシステムからなる全球地球観測システム) AWCI (アジア水循環イニシアティブ) 国際調整会議が、京都リサーチパーク (京都市下京区) にて開催された。本学地球観測データ統合連携研究機構 (EDITORIA)、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)、土木研究所水災害リスクマネジメント国際センター (ICHARM) が中心となり本会議を主催した。GEOSS/AWCI は、アジア域の水循環変動のメカニズムの理解を深め、変動の予測能力を高め、水災害軽減や水資源の有効利用に地球観測データを用いるために、アジア各国政府、国際機関、研究コミュニティが協力してアジア版 GEOSS を構築することを目的としている。平成18年9月に第1回国際調整グループ会合をバンコクで開催した後、バリ島、北京と続き、今回の京都会合が4回目となった。本会合ではアジア18カ国のデモンストレーション流域におけるデータ取得とデータ統合、予測モデルの水災害軽減への適用、能力開発などに焦点を絞り実施された。18カ国から67名の参加者があり、バングラデシュ、ブータン、カンボジア、インド、インドネシア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、ウズベキスタン、ベトナム、日本のアジア地域における16のデモンストレーション流域の代表者に加え、洪水、渇水、水質、気候変動のワーキンググループの議長等が出席した。



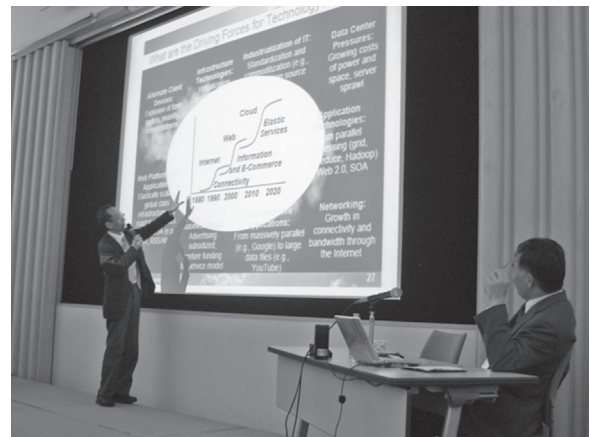
第4回 GEOSS/AWCI/ICG (AWCIの国際調整グループ) 参加者

開催の冒頭では、文部科学省研究開発局海洋地球課の

谷広太室長、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク事務局の Linda Anne Stevenson 氏、全球地球観測システム事務局の Douglas Gripe 氏より、GEOSS への AWCI の貢献に対する感謝と今後の期待についてスピーチをいただいた。

発表の詳細は、以下の WEB サイトからご覧下さい。
<http://www.editoria.u-tokyo.ac.jp/awci/4th/presentation.html>

初日の能力開発セッションでは、国連大学の Herath 教授により、AWCI の能力開発活動の進捗状況を効果的に蓄積し、今後の能力開発の実行計画を効果的に推進するためのオンラインサイトが紹介された。また二日目のデータ管理についてのセッションでは、本学 EDITORIA の研究者らによる、AWCI データのアーカイブ状況および、アジア各国から観測データをアップロードするシステム、メタデータの登録などについて詳しいデモンストレーションが行われた。データ統合コアシステムの開発をリードする生産技術研究所の喜連川優教授からは、クラウドコンピューティングへ向かう IT の展開動向を踏まえ、データ統合・解析システムの開発の方向性に関するショートレクチャがあり、最先端の IT と水循環科学、地球観測、河川流域管理の立場を超えた熱心な質疑応答があった。



喜連川教授のショートレクチャ

午後にはグローバル COE プログラム「都市空間の持続再生学の展開」との共同主催による特別パネルディスカッション「水質汚染の研究発展にむけて」が、工学系研究科の古米弘明教授のリードで開催され、各ワーキンググループとの連携による枠組み作りが提案された。

最後に GEOSS/AWCI 代表であり、本学の EDITORIA 機構長でもある小池俊雄教授より、AWCI 目的達成のために、データとデータ解析基盤、科学技術、研究者・政府関係者、国際機関の協力の枠組みが構築されつつあることが挙げられ、研究の推進・加速を目指すことが強調された。



古米教授のリードによるパネルディスカッション

本部業務改善グループ

平成 20 年度業務改善WG 成果報告会 開催

一般

2月9日（月）、小柴ホールにおいて、平成20年度業務改善WG 成果報告会が業務改善プロジェクト推進本部の主催で開催された。

業務改善WGとは、業務改善プロジェクト推進本部のもと、業務改善の全学的な推進と浸透を目的として、年度ごとに各部局からメンバーを募集して結成し、様々な課題について検討を行うものである。本年度は以下の2つのテーマのもと4チームが結成され、昨年6月から活動を行ってきた。

テーマ1「業務改善効果の可視化」：法人化から現在までの本学の業務改善の総点検。3つの異なる視点から業務改善の現状・改善効果・今後の課題を検証（3チーム）

テーマ2「業務改善総長賞の全学展開」：業務改善総長賞を受賞した課題を全学展開するための企画立案（1チーム）

今回の報告会は、上記WGの活動成果をメンバーから全学の教職員に報告し本学の業務改善の成果と課題を共有することで更なる業務改善推進の一助とするため、従来はWGメンバーのみで行っていた成果報告会を小柴ホールにて開催したものである。

当日は昨年7月に別途設置された「人事便利帳の構築WG」（教職員に必要な人事関係手続きについて簡単にわかりやすく調べることができるWebページ「人事便利帳」の構築）も併せて報告し、各チームが充実した活動内容と成果を教職員に伝えた。

当日の参加者は約200人で、補助椅子が必要となる盛況であった。参加者へのアンケートでは報告会について「大変良かった」「まあまあ良かった」が計85.7%と好評価を得、WGメンバーからも「業務の枠にとらわれることなく集まったメンバーで色々な問題をクリアーし、話し合いを重ね、1つの結果を出せたというのは、今までの研修等にはない達成感があり大変貴重な経験でした」等の感想があり、有意義な結果であったと言える。

今後もWGのあり方やテーマ設定等について検討し、更なる業務改善の推進に繋がるよう取り組んでいきますので、教職員の皆様におかれましては尚一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

※業務改善WGの活動成果の詳細については、「平成20年度業務改善プロジェクトWG 報告書」にまとめ、各部局に配布しております。追加のご要望等につきましては下記までご連絡下さい。

本件担当：本部業務改善グループ

gyoumukaizen@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

本部留学生支援グループ

「東京大学外国人留学生スキー講習会・小谷（おたり）中学校との交流会」 開催される

一般

本学運動会スキー部・スキー部OBの多大な協力をいただき、通算で10回目となる「外国人留学生スキー講習会・長野県北安曇郡小谷村立小谷中学校との交流会」（2月13日～16日）が開催された。

2月13日（金）夜、多数の応募者の中から抽選で選ばれた28名の留学生は本郷キャンパスを後にし、14日（土）未明、白嶺荘（本学運動会スキー部合宿施設）に到着、仮眠をとった後、開校式を経て、梅池高原スキー場で講習が開始された。

参加者の大半が初心者のため、講習は5チームに分かれて、歩き方・滑り方の練習から始まったが、コーチ陣の懇切丁寧な指導により、午後には全員が緩斜面のコースを滑り降りることができるようになった。

15日（日）午前は、ゴンドラに乗り頂上付近まで行き、快晴の下、前日に続きスキーを楽しんだ。午後は白嶺荘に戻り雪合戦を行った。雪合戦はチーム対抗の形で競い、白熱した戦いが繰り広げられた。夕方からの白嶺荘は、和やかな懇談が進められる国際交流の場となった。

最終日の2月16日（月）には現地の小谷中学校を訪問し、生徒との交流会が行われた。

交流会では初めての試みとして、留学生が司会から各国紹介までをコーディネートする「東京大学アワー」の時間を設けた。今回は中国、ベトナム、タイ、ルーマニアの4か国に関して、クイズを交えたパワーポイントによる国紹介、タイの鬼ごっこなどが行われ、また、ベトナム紹介では、小谷中学校の生徒にアオザイ（ベトナムの衣装）を着てもらい、留学生がアオザイの歴史などの説明をした。アオザイを着た生徒からは「（着ている間は）寒かったけど、（アオザイを着る）良い経験ができました」との感想が聞かれた。また、東京大学に関して生徒から質問を受け付け、留学生・本学スキー部の学生から回答をするコーナーでは、生徒から活発な質問が寄せられるなど、所定の1時間を上回る盛り上がりを見せた。

その後の1年生の生徒との交流では、生徒と留学生に

よる鬼ごっこのゲーム、グループに分かれての自己紹介、お茶会などが行われ、およそ3時間の交流会はあっという間に過ぎていった。交流会終了後は生徒に見送られて中学校をあとにし、バスで東京に向かった。

この行事が楽しく、無事に実施することができたのは、本学スキー部関係者、小谷中学校関係者、生徒さんの御協力の賜物であり、ここに心から御礼申し上げる次第です。

なお、本事業は東京大学外国人留学生支援基金により支援されています。



スキー講習会参加者：白嶺荘にて



アオザイを着た中学生とアオザイの説明を行う
ベトナム人留学生：小谷中学校にて

本部国際企画グループ
「クリントン米国国務長官タウンミーティング」開催される

2月17日（火）弥生講堂・一条ホールにおいて、ヒラリー・クリントン米国国務長官と東京大学学生とのタウンミーティングが開催された。就任後初めての来日に伴い実現した本学学生との対話集会で、学生270名の参加があった。

開会に先立ち、小宮山宏総長、浅島誠理事・副学長ならびに学生代表との懇談、記念品の交換などが行われた。タウンミーティングでは、小宮山総長の歓迎挨拶の後、学生代表による進行のもと、クリントン国務長官の

スピーチ、質疑応答が行われた。

長官は自ら質問者を指名し、さまざまな質問に一つ一つ丁寧に応対され、盛況のうちに終了した。



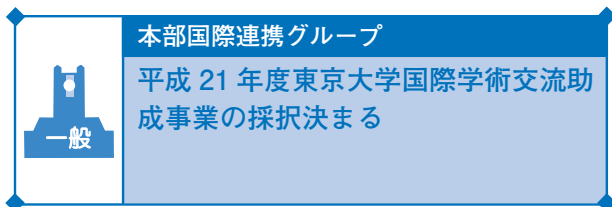
熱弁をふるうクリントン米国国務長官



クリントン氏のスピーチに聞き入る学生達



スピーチ後の質疑応答の様子



平成 21 年度東京大学国際学術交流助成事業下記 4 件について、以下のとおり助成することを決定した。
各助成事業募集要項は → 関連ウェブサイト URL http://www.u-tokyo.ac.jp/res02/d03_05_01_j.html

1. 平成 21 年度 東京大学海外学術交流拠点設置・運営経費助成

部局名	代表者		海外拠点の名称	設置（予定）場所
医学教育国際協力研究センター	センター長 (教授)	山本 一彦	東京大学医学教育共同研究センター（保健科学大学、ラオス人民民主共和国）	保健科学大学（ラオス人民民主共和国） (平成 21 年 7 月 1 日 ～平成 24 年 3 月 31 日)
大学院医学系研究科	教授	渋谷 健司	メコン河流域の環境に配慮した公衆衛生活動の実現に向けた海外拠点	< 中央拠点 > ラオス医科大学大学院公衆衛生学教室内 < 地域拠点 > ルアンナムタ県保健局及び ヴィエンポウカ郡ヘルスセンター内 (平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 22 年 3 月 31 日)
大学院理学系研究科	教授	吉井 譲	東京大学アタカマ天文台山麓研究施設	チリ共和国 第二州 サンペドロ・ド・アタカマ市 (平成 21 年 10 月 1 日～)
大学院総合文化研究科	教授	小島 憲道	東京大学リベラルアーツ南京交流センター	南京大学中日文化研究センター (平成 16 年 11 月 22 日 ～平成 22 年 3 月 31 日)
社会科学研究所	所長 (教授)	小森田 秋夫	東京大学社会科学研究所北京研究基地	中国社会科学院経済研究所内 2207 号室 (平成 19 年 10 月 28 日 ～平成 24 年 3 月 31 日)

2. 平成 21 年度 東京大学シンポジウム開催経費助成

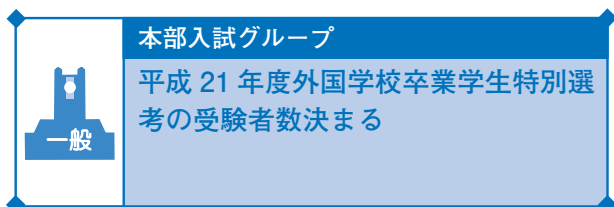
部局名	開催責任者		シンポジウム名	開催（予定）場所
大学院総合文化研究科	准教授	前田 京剛	超伝導体におけるボルテックスマターに関するワークショップ	東京大学山中寮国際セミナーハウス
大学院薬学系研究科	准教授	渋谷 雅明	第 9 回国際テルベン会議	東京大学弥生講堂・一条ホール
大学院新領域創成科学研究科	教授	山本 博一	多目的森林管理に関する国際研究集会：気候変動時代における持続可能性の戦略	新潟コンベンションセンター
地震研究所	教授	瀬瀬 一起	国際シンポジウム「長周期地震動とその都市災害軽減」	東京大学弥生講堂・一条ホール

3. 平成 21 年度 東京大学ジョイント・フォーラム開催経費助成

部局名	開催責任者		フォーラム名	開催地 (開催国)
総括プロジェクト 機構 ジェロントロジー 寄付研究部門	特任教授	秋山 弘子	東京大学－ソウル国立大学 ジョイント・カンファレンス 『高齢化するアジアの課題と可能性：高齢社会を支える新たなシステムを求めて』	ソウル (韓国)
大学院総合文化 研究科	教授	木村 秀雄	東アジア四大学フォーラム －共通文化の創造を目指して	ソウル (韓国)

4. 平成 21 年度 東京大学長期派遣経費助成

部局名	申請者		受入研究機関 (国名) 派遣期間	研究題目
大学院工学系 研究科	助教	原 祥太郎	マサチューセッツ工科大学 原子力工学部 (米国) 21.4.1 ~ 21.9.30	マルチスケール解析による異種材料 ナノスケール界面の密着特性評価
大学院人文社会系 研究科	教授	上野 善道	オックスフォード大学 東洋学部 (英国) 21.5.7 ~ 21.8.7	日本語アクセント研究
大学院人文社会系 研究科	教授	横澤 一彦	カリフォルニア大学 バークレー校 (米国) 21.12.1 ~ 22.2.28	色彩と空間配置の嗜好における日米 文化間の美感に関する研究
大学院理学系 研究科	助教	岡 隆史	スイス連邦工科大学 チューリッヒ校 (スイス) 21.5.1 ~ 21.8.10	強相関電子系における非平衡相転移 の理論的研究と強相関デバイスへの 応用
大学院理学系 研究科	准教授	横山 央明	国立大気研究所 高高度天文台 (米国) 21.5.25 ~ 21.11.20	太陽プラズマ活動現象のシミュレー ション・観測研究－表面磁場活動研 究の発展とダイナモ研究の立上げと をめざして
宇宙線研究所	助教	小汐 由介	グランサッソ国立研究所 (イタリア) 21.6.26 ~ 21.12.25	太陽ニュートリノの精密観測および ニュートリノ振動現象の研究



平成 21 年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付は、第 1 種が 12 月 8 日（月）、第 2 種が 11 月 11 日（火）に締め切られた。志願者数は、第 1 種（外国人）118 人、第 2 種（日本人）117 人、合計 235 人で前年度より 41 人増であった。

また、その後行われた第 1 次選考の書類審査の結果、第 2 次選考受験者数が確定し、1 月 23 日（金）に各人あてに結果が通知された。

外国学校卒業学生特別選考第 1 次選考結果				
科 類	第 1 種（外国人）		第 2 種（日本人）	
	志望者数	合格者数	志望者数	合格者数
文科一類	8	4	33	16
文科二類	36	9	21	8
文科三類	11	4	27	15
理科一類	51	13	23	12
理科二類	9	4	8	8
理科三類	3	1	5	3
合 計	118	35	117	62

なお、志願者の種別人数、国籍等（第 1 種）及び修学先の所在国名等（第 2 種）の内訳は、次のとおりである。

【第 1 種】

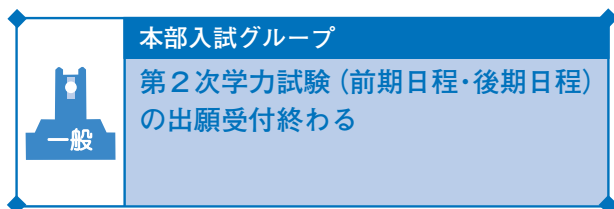
インドネシア	2 人
韓 国	30 人
中 国	72 人
台 湾	1 人
ベトナム	4 人
マレーシア	4 人
ミャンマー	1 人
アラブ首長国連邦	1 人
アメリカ	1 人
カナダ	1 人
ハンガリー	1 人

合 計 118 人

【第 2 種】

オマーン	1 人	イギリス	7 人
韓 国	6 人	イタリア	1 人
シンガポール	5 人	オランダ	2 人
タ イ	2 人	スイス	1 人
中 国	11 人	デンマーク	1 人
香 港	3 人	ド イ ツ	6 人
台 湾	4 人	フランス	3 人
フィリピン	2 人	ロシア	2 人
タンザニア	1 人		
南アフリカ	1 人		
オーストラリア	3 人		
ニュージーランド	1 人		
サウジアラビア	1 人		
トルコ	1 人		
アメリカ	48 人		
カナダ	4 人		

合 計 117 人



平成 21 年度第 2 次学力試験の願書受付が 1 月 26 日（月）から始まり、2 月 4 日（水）に締め切られた。
志願者数は次のとおりである。

前期日程入学志願者数等

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	前年度の倍率
文科一類	401	1,643	4.10	3.35
文科二類	353	1,205	3.41	3.74
文科三類	469	1,501	3.20	3.61
理科一類	1,108	2,893	2.61	2.75
理科二類	532	2,094	3.94	4.26
理科三類	98	541	5.52	4.64
合 計	2,961	9,877	3.34	3.41

後期日程入学志願者数等

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	前年度の倍率
文科一類	100	3,166	31.66	34.85
文科二類				
文科三類				
理科一類				
理科二類				
理科三類				
合 計	100	3,166	31.66	34.85

本部入試グループ
平成 21 年度第 2 次学力試験（前期日程）の受験者数決まる
 一般

本学の平成 21 年度第 2 次学力試験（前期日程）の第 1 段階選抜が行われ、2 月 11 日（水）午後、本郷地区キャンパス内において合格者が発表された。

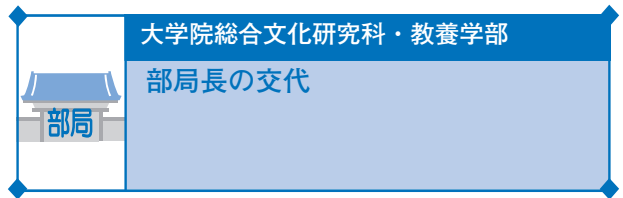
これにより、2 月 25 日（水）・26 日（木）に、本郷・駒場の両キャンパス試験場において行われる前期日程試験の受験者数が確定した。

なお、各科類の合格者数は下表のとおりである。

前期日程試験第 1 段階選抜結果

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	第 1 段階選抜		合格者科類別成績		
				合格者	予告倍率	最高点	最低点	平均点
文科一類	401	1,643	4.10	1,210	3.0	884	704	772.92
文科二類	353	1,205	3.41	1,059	3.0	868	722	773.97
文科三類	469	1,501	3.20	1,410	3.0	858	729	776.41
理科一類	1,108	2,893	2.61	2,770	2.5	878	694	789.35
理科二類	532	2,094	3.94	1,868	3.5	872	716	775.93
理科三類	98	541	5.52	392	4.0	881	703	797.45
合 計	2,961	9,877	3.34	8,709				

※大学入試センター試験成績は、900 点を満点とする。



平成 21 年 2 月 16 日付で、下記のとおり、大学院総合文化研究科長・教養学部長の交代がありました。新部局長を紹介するとともに、退任された部局長のご挨拶を掲載します。

【新部局長】 山影 進
【前部局長】 小島 憲道

新部局長紹介

山影 進 教授

(平成 21 年 2 月 16 日～平成 23 年 2 月 15 日)

1972 年 3 月 東京大学教養学部卒業

1974 年 3 月 東京大学大学院社会学研究科修士課程修了

1982 年 6 月 Ph.D. (マサチューセッツ工科大学)

1991 年 4 月 東京大学教養学部教授

1996 年 4 月 東京大学大学院総合文化研究科 教授

所属：国際社会科学専攻

専門分野：国際関係理論、比較地域体系、東南アジア国際関係、人工社会構築論

研究内容 (代表的な著書、編著書)：

山影進 (編) 『相互依存時代の国際摩擦』東京大学出版会, 1988.

山影進 『ASEAN シンボルからシステムへ』東京大学出版会, 1991.

山影進 『対立と共存の国際理論』東京大学出版会, 1994.

山影進 『ASEAN パワー アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会, 1997.

山影進 (編) 『転換期の ASEAN』日本国際問題研究所, 2001.

小和田恒・山影進 『国際関係論』放送大学教育振興会, 2002.

末廣昭・山影進 (編) 『アジア政治経済論』NTT 出版, 2002.

山影進 (編) 『東アジア地域主義と日本外交』日本国際問題研究所, 2003

山影進 『人工社会構築指南』書籍工房早山, 2007.

高橋哲哉・山影進 (編) 『人間の安全保障』東京大学出版会, 2008.

部局長退任の挨拶

退任にあたって：駒場キャンパス整備への感謝

前大学院総合文化研究科長・教養学部長
小島 憲道

私は 2007 年 2 月 16 日に大学院総合文化研究科長・教養学部長に就任しましたが、部局長に就任しました時期は、新学習指導要領のもとで教育を受けた最初の学生が入学した年度にあたり、前期課程カリキュラムと進学振分け制度の大幅な改革のもとで前期課程教育を行いました。前期課程教育に関しましては、理系の全ての学生に対して科学英語のライティング能力を養うため、10 名のネイティブ教員を雇用して高度英語習得プログラム (ALESS) をスタートさせました。また、教養学部で培った教養教育を東アジアに発信するため東アジア・リベラルアーツ・イニシアチブ (EALAI) を推進したことやグローバル COE (共生のための国際哲学教育研究センター) の設置などが思い出されます。施設面では、PFI 事業による駒場コミュニケーション・プラザが日本の建築業界で最高の賞である BCS 賞に選ばれたこと、「理想の教育棟」の建設に着手できたことなどが思い出されます。特に「理想の教育棟」の建設は、小宮山総長をはじめ東大関係者の方々や森ビル会長の一方ならぬ御尽力によるものでした。今年に教養学部創立 60 周年を迎えますが、一高時代から受け継がれてきた有形の文化遺産と無形の文化遺産であるリベラル・アーツの精神を受け継ぎ、東京帝国大学農学部時代から受け継がれてきた緑豊かな自然のなかで教養と文化の香りのする駒場キャンパスとして益々発展していくことを願いつつ、退任の挨拶とさせていただきます。

退職教員の紹介

平成 21 年 3 月 31 日をもって本学を去られる予定の先生方を紹介します。紹介記事及び写真は、ご本人の了解のもと、ご提供頂いたものを掲載します。

大学院法学政治学研究科・法学部

大沼 保昭 教授

(本学在職期間 昭和 45 年 4 月～平成 21 年 3 月)



昭和45年3月
法学部卒業
昭和48年11月
助教授
昭和59年7月
教授(法学部)
平成3年4月
教授(大学院法学政治学研究科)
所属：国際法

専門分野：国際法理論と歴史；国際人権法；戦争責任
研究内容（代表的な著書や論文等）：

- 『戦争責任論序説－「平和に対する罪」の形成過程におけるイデオロギー性と拘束性－』（東京大学出版会,1975年）
- A Normative Approach to War: Peace, War, and Justice in Hugo Grotius* (Clarendon Press,Oxford,1993)
- 『国際法－はじめて学ぶ人のための－』（東信堂,2005年）

五十嵐 武士 教授

(本学在職期間 昭和 44 年 7 月～昭和 48 年 3 月、
昭和49年4月～昭和51年3月、
昭和53年9月～平成21年3月)



昭和44年6月
法学部卒業
昭和53年9月
助教授(法学部)
昭和60年6月
教授(法学部)
平成3年4月
教授(大学院法学政治学研究科)
所属：比較政治

専門分野：比較政治、アメリカ政治外交史

研究内容（代表的な著書や論文等）：

- 『アメリカの建国—その栄光と試練』（東京大学出版会 1984 年）
『対日講和と冷戦—戦後日米関係の形成』（東京大学出版

会 1986 年)

『政策革新の政治学—レーガン政権下のアメリカ政治』（東京大学出版会 1992 年）

高橋 宏志 教授

(本学在職期間 昭和 46 年 7 月～平成 21 年 3 月)



昭和46年6月
法学部卒業
昭和46年7月
助手
昭和49年12月
助教授
昭和60年8月
教授(法学部)

平成元年4月～平成2年3月 総長補佐

平成3年4月 教授(大学院法学政治学研究科)

平成13年4月～平成15年3月 評議員

平成16年4月～平成19年3月

大学院法学政治学研究科長・法学部長

平成19年4月～平成21年3月

理事・副学長、教授(大学院法学政治学研究科)

兼務

所属：民事手続法

専門分野：民事訴訟法

研究内容（代表的な著書や論文等）：

- 重点講義 民事訴訟法（上） 平成17年2月 有斐閣
重点講義 民事訴訟法（下） 平成16年1月 有斐閣
新民事訴訟法論考 平成10年2月 信山社

廣瀬 久和 教授

(本学在職期間 昭和 48 年 4 月～昭和 51 年 8 月、昭和
55 年 4 月～平成 21 年 3 月)

昭和48年3月 法学部卒業

昭和52年4月 助教授(上智大学法学部)

平成6年4月 教授(東京大学教養学部)

平成7年4月 教授(大学院法学政治学研究科)

所属：民刑事法

専門分野：消費者法、民法

研究内容（代表的な著書や論文等）：

『ユニドロア国際商事契約原則』（共著）（商事法務、2004）

“The Development of the Legal Principle of Undue Influence in India”

East Asian Cultural Studies Vol. 25, pp.131-159 (1986)

“L'argument du prix dans les discussions sur les conditions generales des contrats”

Revue de la recherche juridique - Droit Prospectif No.XII-29 (1987-2) pp.497-522 (1987)

大学院医学系研究科・医学部

小俣 政男 教授

(本学在職期間 平成4年4月～平成21年3月)



昭和45年3月
千葉大学医学部卒業
昭和46年4月
千葉大学医学部附属病院医員
昭和49年6月
アメリカ合衆国エール大学附
属病院

昭和54年6月 アメリカ合衆国南カリフォルニア大学
昭和54年8月 助手(千葉大学医学部附属病院)
昭和59年5月 講師(千葉大学医学部附属病院)
昭和62年10月 講師(千葉大学医学部)
平成4年4月 教授(医学部)
平成9年4月 教授(大学院医学系研究科) (現職)

所属：内科学専攻 器官病態内科学講座 消化器内科学
分野

専門分野：消化器病学、肝臓病学

研究内容 (代表的な著書や論文等)：

「内科学」朝倉書店

“Interferon therapy reduces the risk for hepatocellular carcinoma : National surveillance program of cirrhotic and noncirrhotic patients with chronic hepatitis C in Japan” Ann Intern Med、1999

“Mutations in the precore region of hepatitis B virus DNA in patients with fulminant and severe hepatitis” N Engl J Med、1991

玉置 邦彦 教授

(本学在職期間 昭和48年6月～昭和63年9月、

平成6年4月～平成21年3月)



昭和48年3月
医学部卒業
昭和48年6月
助手(医学部附属病院)
昭和56年2月
講師(医学部)
昭和60年7月
助教授(医学部)

昭和63年9月 教授(山梨医科大学医学部)

平成6年4月 教授(医学部)

平成9年4月 教授(大学院医学系研究科) (現職)

所属：外科学専攻 感覚・運動機能医学講座 皮膚科学
分野

専門分野：皮膚免疫学・皮膚アレルギー疾患

研究内容 (代表的な著書や論文等)：

「最新皮膚科学大系」中山書店 2008

Thymus and activation-regulated chemokine in atopic dermatitis: serum TARC levels is closely associated with disease activity J Allergy Clin Immunol.

2001,107:535-4

Epidermal Langerhans cells are derived from cells originating in bone marrow. Nature.

1979,282:324-6

野本 明男 教授

(本学在職期間 昭和57年10月～昭和62年3月、

平成3年9月～平成21年3月)



昭和44年3月 薬学部卒業
昭和49年3月

大学院薬学系研究科卒業

昭和49年4月

国立衛生試験所

昭和49年8月

米国ニューヨーク州立大学留
学

昭和52年8月 助教授(北里大学薬学部)

昭和57年10月 助教授(医学部)

昭和62年4月 財団法人東京都臨床医学総合研究所

平成3年9月 教授(医科学研究所)

平成12年2月 教授(大学院医学系研究科) (現職)

所属：病因・病理学専攻 微生物学講座 微生物学分野

専門分野：微生物学、ウイルス学

研究内容 (代表的な著書や論文等)：

「The location of the polio genome protein in viral RNAs and its implication for RNA synthesis」Nature 268:208-213, 1977.

「Transgenic mice susceptible to poliovirus」Proc. Natl. Acad. Sci. USA 88:951-955, 1991.

「Eradication of poliomyelitis」Nature Immunol. 3:205-208, 2002.

廣川 信隆 教授

(本学在職期間 昭和46年7月～昭和57年2月、

昭和58年10月～平成21年3月)



昭和46年3月

医学部卒業

昭和46年7月

医学部附属病院

昭和47年4月

助手(医学部)

昭和57年3月

助教授(アメリカ合衆国ワシ
ントン大学)

昭和58年4月 准教授(アメリカ合衆国ワシントン大学)

昭和58年10月 教授(医学部)

平成9年4月 教授(大学院医学系研究科) (現職)

(平成15年4月～平成19年3月 大学院医学系研究科長・
医学部長)

所属：分子細胞生物学専攻 細胞生物学・解剖学講座細
胞生物学分野

専門分野：分子細胞生物学、神経科学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

1. Hirokawa, N. et al. Submolecular domains of bovine brain kinesin identified by electron microscopy and monoclonal antibody decoration. Cell 56:867-878, 1989.
2. Hirokawa, N. Kinesin and dynein superfamily proteins and the mechanism of organelle transport. Science 279:519-526, 1998.
3. Hirokawa, N. et al. Nodal flow and the generation of left-right asymmetry. Cell 125 :33-45, 2006.

安藤 譲二 教授

（本学在職期間 平成3年7月～平成21年3月）



昭和48年9月
北海道大学医学部卒業
昭和48年12月
北海道大学医学部附属病院
昭和58年5月
助手(北海道大学応用電気研究所)

昭和60年4月 講師(北海道大学応用電気研究所)

平成3年7月 寄付講座教員(医学部)

平成9年8月 助教授(大学院医学系研究科)

平成11年7月 教授(大学院医学系研究科) (現職)

所属：生体物理医学専攻 医用生体工学講座 システム生理学分野

研究内容（代表的な著書や論文等）：

K. Yamamoto, T. Sokabe, T. Matsumoto, K. Yoshimura, M. Shibata, N. Ohura, T. Fukuda, K. Sekine, S. Kato, M. Isshiki, T. Fujita, M. Kobayashi, K. Kawamura, H. Masuda, A. Kamiya, and J. Ando: Impaired flow-dependent control of vascular tone and remodeling in P2X4-deficient mice. Nat. Med. 12:133-137, 2006
J. Ando, T. Komatsuta, and A. Kamiya: Cytoplasmic calcium response to fluid shear stress in cultured vascular endothelial cells. In Vitro Cell. Dev. Biol. 24:871-877, 1988

安藤譲二：シェアストレスと内皮細胞 安藤著 メディカルレビュー社 1996年

高本 真一 教授

（本学在職期間 平成9年6月～平成21年3月）



昭和48年3月 医学部卒業

昭和48年4月 三井記念病院

昭和53年7月

米国ハーバード大学医学部マ

サチュセッツ総合病院

昭和55年2月

講師(埼玉医科大学第一外科)

昭和62年9月 公立昭和病院

平成5年2月 国立循環器病センター病院

平成9年6月 教授(大学院医学系研究科) (現職)

所属：外科学専攻 臓器病態外科学講座 心臓外科学分野(兼)呼吸器外科学分野

専門分野：心臓血管外科学・大動脈外科・臓器組織移植

研究内容（代表的な著書や論文等）：

「医の原点」I-VI (単行本、編著) 金原出版、2002, 2003, 2005

「大動脈外科の要点と盲点」(単行本、編著) 文光堂、2005

「Brain Protection in Aortic Surgery」(単行本、編著) Elsevier、1997

大学院工学系研究科・工学部

大垣 眞一郎 教授

（本学在職期間 昭和52年4月～平成21年3月）



昭和44年5月

東京大学工学部都市工学科卒業

昭和46年3月

東京大学大学院工学系研究科都市工学専門課程修士課程修了

昭和49年3月 東京大学大学院工学系研究科都市工学専門課程博士課程修了、工学博士

昭和49年4月 東北大学工学部助手(土木工学科)

昭和52年4月 東京大学工学部助教授(都市工学科)

昭和58年10月 アジア工科大学院(タイ国)派遣(JICA 専門家)助教授

昭和60年4月 同上派遣終了

平成元年4月 東京大学工学部教授

平成7年4月 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授(現在に至る)

平成12年4月～平成14年3月

東京大学工学系研究科附属水環境制御研究センター長

平成14年4月～平成16年3月

東京大学大学院工学系研究科長・工学部長

平成18年4月～現在

東京大学工学系研究科附属水環境制御研究センター長

所属：都市工学専攻

専門分野：水環境学、都市環境工学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

・Advances in Water and Wastewater Treatment Technology, 共著, Elsevier, 2001

・Water Resources and Water Supply in the 21st Century, 共著, Hokkaido University Press, 2003

・水環境ハンドブック、共編、朝倉書店、2006年

岡部 篤行 教授

（本学在職期間 昭和55年10月～平成21年3月）



昭和44年

東京大学工学部卒業

昭和46年

東京大学大学院工学系修士
修了

昭和50年

ペンシルバニア大学博士修了

昭和52年 東京大学大学院工学系博士修了

昭和52年 筑波大学講師着任

昭和54年 筑波大学助教授昇任

昭和55年 東京大学助教授着任

平成2年 東京大学教授昇任 現在に至る

平成10年～17年 空間情報科学研究センター長

所属：都市工学専攻 都市計画講座

専門分野：都市解析、空間情報科学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

Okabe, A., Boots, B., Sugihara, K. and Chiu, S.N. (2000)
Spatial Tessellations: Concepts and Applications of
Voronoi Diagrams, John Wiley

Okabe, A. (ed.) (2004)

Islamic Area Studies with Geographical Information
Systems, RoutledgeCurzon

Okabe, A. (ed.) (2005)

GIS-based Studies in the Humanities and Social
Sciences, CRC / Taylor & Francis

木村 文彦 教授

（本学在職期間 昭和54年4月～平成21年3月）



昭和43年3月

東京大学工学部航空学科卒業

昭和49年3月

東京大学大学院工学系研究科
航空学専攻博士課程修了

昭和49年4月

通商産業省工業技術院電子技術
総合研究所パターン情報部
バイオニクス研究室研究員

昭和54年4月 東京大学工学部精密機械工学科助教授

昭和62年7月 東京大学工学部精密機械工学科教授

所属：精密機械工学専攻精密情報システム大講座

専門分野：計算機援用設計生産工学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

形状モデリング、CAD/CAM、生産システム工学、ラ
イフサイクル工学

鈴木 博之 教授

（本学在職期間 昭和49年4月～平成21年3月）



昭和43年3月 工学部卒業

昭和49年3月

大学院工学系研究科博士課程
単位取得退学

昭和53年4月 助教授昇任

平成2年11月 教授昇任

所属：建築学専攻

専門分野：建築史学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

1977年『建築の世紀末』（晶文社）

1990年『東京の地霊』（文藝春秋）

1996年『ヴィクトリアン・ゴシックの崩壊』（中央公論
美術出版）

中尾 真一 教授

（本学在職期間 昭和56年12月～平成21年3月）



昭和51年3月

東京大学工学部卒業

昭和56年3月

東京大学大学院工学系研究科
博士課程修了

平成元年7月

東京大学工学部助教授

平成7年7月 同上 教授

所属：化学システム工学専攻

専門分野：膜工学、分離工学

平尾 公彦 教授

(本学在職期間 平成5年6月～平成21年3月)



昭和44年3月
京都大学工学部燃料化学科卒業
昭和49年3月
京都大学大学院工学研究科燃料化学専攻博士課程修了
昭和58年
名古屋大学教養部助教授

昭和63年 名古屋大学教養部教授
平成5年 東京大学工学部工業化学科教授
平成7年 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻教授(改組により)
平成14年～平成16年 東京大学大学院工学系研究科長・工学部長
平成19年 東京大学副学長
平成20年12月 東京大学理事・副学長
所属：応用化学専攻
専門分野：理論化学

松島 克守 教授

(本学在職期間 昭和48年～昭和56年
平成11年8月～平成21年3月)



昭和44年3月
東京大学工学部卒業
昭和46年3月
同大学院修士課程 修了
昭和54年 博士号(工学博士)
取得(東京大学)
昭和46年～48年
石川島播磨重工業株式会社
(ジェットエンジン工場生産
エンジニア)

昭和48年～56年 東京大学工学部助手(生産システム)
昭和55年～56年
西ドイツ・フンボルト財団の奨学研究員としてベルリン工科大学でCAD/CAMの研究に従事
昭和57年 日本アイ・ビー・エム株式会社入社
科学技術システムサポート・センター担当
(CAD/CAM、CAE、AIのマーケティング)
CIMサポート・センター担当
(CIMのコンセプト開発、CIMのマーケティング)
中部第一営業所長
(製造業の大企業顧客担当)
ワークステーション担当
(RS6000、PS/55、OS/2のマーケティング)
製造営業推進本部長
(ソリューションマーケティング、コンサルティング手法の開発、アジアパシフィックの製造業のマーケティング戦略担当)

平成9年2月 プライスウォーターハウスコンサルタン
ト株式会社入社 常務取締役に就任
平成11年8月 東京大学大学院工学系研究科教授
平成14年1月～15年3月 東京大学工学部総合研究機
構長兼任
平成17年 工学部システム創成学科、工学系研究科
技術経営戦略学専攻 教授兼任
平成20年4月 工学系研究科総合研究機構 イノベー
ション政策研究センター長兼任
所属：総合研究機構 俯瞰工学部門
専門分野：ビジネスモデル学、生産システム、俯瞰工学、
産業戦略論
研究内容(代表的な著書や論文等)：
「動け！日本 イノベーションで変わる生活・産業・地域」
「MOTの経営学」
「クラスター形成による『地域新生のデザイン』」

毛利 尚武 教授

(本学在職期間 平成12年4月～平成21年3月)



昭和43年
東京都立大学理学部物理学科
卒業
昭和54年
東京大学大学院工学系研究科
博士課程修了
昭和43年
富士重工業株式会社
(～昭和47年)

昭和63年 豊田工業大学工学部教授
平成12年 東京大学大学院工学系研究科精密機械工学
専攻教授
平成14年 大学院工学系研究科精密機械工学専攻長
平成16年 工学部システム創成学科知能社会システム
コース長

所属：精密機械工学専攻・精密情報システム大講座
専門分野：生産工学・精密加工学
研究内容(代表的な著書や論文等)：

- 1) 大面積仕上放電加工の研究, 毛利尚武, 齋藤長男, 大竹広定, 高鷲民夫, 小林和彦, 1987: 精密工学会誌, Vol.53, No.1, pp.124-130
- 2) Metal Surface Modification by Electrical Discharge Machining with Composite Electrode, N.Mohri, N.Saito, Y.Tsunekawa, 1993: Annals of CIRP Vol.42, No.1, pp.219-222
- 3) Assisting Electrode Method for Machining Insulating Ceramics, Naotake Mohri, Yasushi Fukuzawa, Takayuki Tani, Nagao Saito, Katsushi Furutani, 1996: Annals of CIRP, 45, 1, pp. 201-204

綿貫 忠晴 講師

(本学在職期間 昭和60年3月～平成21年3月)



昭和60年3月
科学技術庁航空宇宙技術研究
所より工学部(助手)に出向
平成10年3月
大学院工学系研究科博士(工
学)(論文博士)取得
平成20年4月 講師昇任
所属：航空宇宙工学専攻
専門分野：空気力学

研究内容(代表的な著書や論文等)：

- ・宇宙飛行体の熱気体力学(共著、東京大学出版会、2002)
- ・燃焼駆動式CO₂ガスダイナミックレーザーの特性(Ⅱ)(Ⅲ)(共著、日本航空宇宙学会論文集、2000)
- ・大迎角細長物体まわりの剥離流の可視化(共著、可視化情報、1994)

大学院人文社会系研究科・文学部

鈴木 泰 教授

(本学在職期間 平成15年4月～平成21年3月)



昭和46年6月
東京大学文学部卒業
昭和49年3月
東京大学大学院人文科学研究
科修士課程修了
昭和50年3月
東京大学大学院人文科学研究
科博士課程中途退学

昭和50年4月 山形大学人文学部専任講師
昭和54年2月 山形大学人文学部助教授
昭和56年10月 武蔵大学人文学部助教授
平成5年4月 お茶の水女子大学文教育学部教授
平成15年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授
所属：日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野
専門分野：日本語学
研究内容(代表的な著書や論文等)：
『ケーススタディー日本文法』(共編著、おうふう、1987)
『古代日本語動詞のテンス・アスペクト—源氏物語の分
析—』(単著、ひつじ書房、1992、1999年改訂版)
『古代日本語時間表現の形態論的研究』(単著、ひつじ書
房、2009)

塩川 徹也 教授

(本学在職期間 昭和55年4月～平成21年3月)



1968年3月
東京大学教養学部卒業
1975年6月
パリ・ソルボンヌ大学博士課
程修了

1976年4月 京都大学助教授(教養部)
1980年4月 東京大学助教授(文学部)
1993年1月 同教授
1995年4月 同教授(人文社会系研究科)
所属：欧米系文化研究専攻フランス語フランス文学専門
分野

専門分野：フランス文学・思想

研究内容(代表的な著書や論文等)：

Pascal et les miracles, Paris, Nizet, 1977 (単著)
Pascal Port-Royal Orient Occident, Actes du Colloque
de l'Universite de Tokyo, Paris, Klincksieck, 1991 (共編
著)
『パスカル考』岩波書店、2003 (単著)

末木 文美士 教授

(本学在職期間 昭和61年4月～平成21年3月)



1973年3月
東京大学文学部卒業
1975年3月
東京大学大学院人文科学研究
科修士課程修了
1978年3月
東京大学大学院人文科学研究
科博士課程単位取得退学

1986年4月 東京大学文学部助教授
1995年1月 東京大学文学部教授
1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授
所属：アジア文化研究専攻インド哲学仏教学専門分野
専門分野：日本仏教史
研究内容(代表的な著書や論文等)：
『平安初期仏教思想の研究』
『鎌倉仏教展開論』
『近代日本と仏教』

大学院理学系研究科・理学部

佐藤 勝彦 教授

(本学在職期間 昭和57年12月～平成21年3月)



昭和43年3月
京都大学理学部物理学科卒業
昭和48年3月
京都大学大学院理学研究科物
理学第二専攻 博士課程単位
取得

昭和49年3月 京都大学大学院理学研究科物理学第二
専攻 博士課程修了
昭和57年12月 東京大学理学部物理学科 助教授
平成2年10月 理学部 教授
平成5年4月 大学院理学系研究科教授、現在に至る。
平成13年4月～15年3月
大学院理学系研究科長・理学部長
平成11年4月～13年3月、15年4月～19年3月
理学系研究科 ビッグバン宇宙国際研究センター長

平成18年4月 大学院教育学研究科 教授併任、現在に至る。

所属：物理学専攻 宇宙物理学講座

専門分野：宇宙論・宇宙物理学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

First Order Phase Transition of a Vacuum and the Expansion of the Universe Mon. Not. Roy. Astr. Soc. 195 (1981), 467-479.

K. Sato

Multi-Production of Universes by First-Order Phase Transition of a Vacuum Phys. Lett. 108B (1982), 103-107.

K. Sato, H. Kodama, M. Sasaki and K. Maeda

Statistical Analysis for the future Detection of Supernova Neutrino Burst Astrophys. J. 496 (1998), 216-225.

T. Totani, K. Sato, S. Dalhed and J. Wilson

中田 好一 教授

(本学在職期間 昭和48年7月～平成21年3月)



昭和44年4月

東京大学理学部卒業

昭和46年3月

東京大学大学院理学系研究科
天文学専門課程修士課程修了

昭和48年7月

東京大学大学院理学系研究科
天文学専門課程博士課程修了

昭和48年7月 東京大学理学部助手

平成3年8月 東京大学理学部附属天文学教育研究センター助教授

平成10年4月 東京大学理学系研究科附属天文学教育研究センター教授

現在に至る

所属：附属天文学教育研究センター

専門分野：恒星物理学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

赤色巨星及びそれからの質量放出現象。銀河系、マゼラン雲等近傍銀河の構造。

1."On the Gravo-thermal Catastrophe", Nakada, Y., 1978, Publ. Astron. Soc. Japan, 30, 57-66.

2."Is the Bulge of Our Galaxy Triaxial?", Nakada, Y. et al. 1991, Nature, 353, 140-141.

3."Detection of SiO and H₂O Masers in Galactic Bulge Sources", Nakada, Y. et al.

1993, Publ. Astron. Soc. Japan, 45, 179-189.

松浦 充宏 教授

(本学在職期間 昭和53年4月～平成21年3月)



昭和45年3月 理学部卒業

昭和51年3月

大学院理学系研究科修了
(理学博士)

昭和53年4月 助手(理学部)

昭和57年6月 講師(理学部)

昭和63年6月

助教授(理学部)

平成5年4月 助教授(理学系研究科)

平成6年4月 教授(理学系研究科)(現職)

所属：地球惑星科学専攻・固体地球科学講座

専門分野：固体地球物理学(地震物理学, インバージョン解析理論, 地殻変動論)

研究内容(代表的な著書や論文等)：

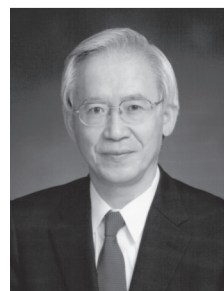
「地球連続体力学」(岩波講座地球惑星科学6巻, 共著) 岩波書店, 1996.

「地震発生の物理学」(共著) 東京大学出版会, 2002.

Geodetic Data Inversion Based on Bayesian Formulation with Direct and Indirect Prior Information, M. Matsu'ura, A. Noda, and Y. Fukahata, Geophys. J. Int., 171, 1342-1351, 2007.

岩澤 康裕 教授

(本学在職期間 昭和59年4月～平成21年3月)



昭和43年3月 理学部卒業

昭和47年3月

大学院理学系研究科博士課程
中退

(昭和48年10月 理学博士)

昭和47年4月

横浜国立大学助手(工学部)

昭和56年4月

横浜国立大学助教授(工学部)

昭和59年4月 助教授(理学部)

昭和61年1月 教授(理学部)

平成5年4月 教授(大学院理学系研究科)(現職)

平成13年～平成16年3月 評議員

平成17年4月～平成19年3月

大学院理学系研究科長・理学部長

平成19年4月

スペクトル化学研究センター長(大学院理学系研究科)

平成20年6月

電気通信大学教授(併任)(電気通信学部)

所属：化学専攻・物理化学講座・化学反応学研究室

専門分野：触媒化学、表面科学

研究内容(代表的な著書や論文等)：

1. Chemical Design Surfaces for Active Solid Catalysts. Y. Iwasawa, Adv. Catal., 35, 187-264 (1987).

2. Direct Phenol Synthesis by Selective Oxidation of Benzene with Molecular Oxygen on an

Interstitial-N/Re Cluster/Zeolite Catalyst. R. Bal, M. Tada, T. Sasaki, and Y. Iwasawa, *Angew. Chem. Int. Ed.*, 45, 448-452 (2006) .

3. In Situ Time-Resolved Dynamic Surface Events on the Pt/C Cathode in a Fuel Cell under Operando Conditions. M. Tada, S. Murata, T. Asaoka, K. Hiroshima, K. Okumura, H. Tanida, T. Uruga, H. Nakanishi, S. Matsumoto, Y. Inada, M. Nomura, and Y. Iwasawa, *Angew. Chem. Int. Ed.*, 46, 4310-4315 (2007) .

吉村 宏和 准教授

(本学在職期間 昭和47年7月～平成21年3月)



昭和43年3月
東京大学理学部卒業
昭和45年3月
東京大学大学院理学系研究科
修士課程修了
昭和47年6月
東京大学大学院理学系研究科
博士課程中退

昭和47年7月 東京大学理学部助手
昭和48年4月 東京大学理学博士
昭和48年9月 米国大気科学研究センター
高等研究プログラム研究員
昭和49年9月 米国カーネギー研究所ヘール天文台
カーネギー研究員
昭和49年9月 米国カリフォルニア工科大学 研究員
昭和52年9月 米国大気科学研究センター 研究員
昭和58年1月 仏国パリ天文台 研究員
昭和58年3月 米国サクラメントピーク天文台 研究員
昭和58年4月 東京大学理学部助教授
昭和61年7月 米国航空宇宙局・マーシャルスペース
フライトセンター 米国科学アカデ
ミー上級研究員

平成5年4月 東京大学大学院理学系研究科助教授
平成16年4月 東京大学大学院理学系研究科准教授
所属：天文学専攻・天文宇宙物理学大講座・太陽物理学
専門分野：太陽物理学・太陽磁場起源論・太陽輻射変動
起源論

研究内容（代表的な著書や論文等）：

Yoshimura, H. 1978, "Nonlinear Astrophysical
Dynamics - Multiple-Period Dynamo Wave Oscillations
and Long-Term Modulations of the 22 Year Solar
Cycle", *Astrophysical Journal*, Vol. 226, pp. 467-494.
Yoshimura, H. 1994, "Darkening of the Sun Prior
to Surface Appearance of Sunspot Flux Tubes and
Magneto-Thermal Pulsation of the Sun",
Astronomische Nachrichten, Vol. 315, pp. 371-390.
Yoshimura, H. 1997, "Multiplicity of the Discrete Delay
Time of the Response of the Solar Total Irradiance
Variation to the Long-Term Solar Magnetic Cycle

Amplitude Modulation Deduced from the Greenland
10Be Data", *Proceedings of the Japan Academy, Ser.
B*, Vol. 73, pp. 115-119.

大学院農学生命科学研究科・農学部

西澤 直子 教授

(本学在職期間 昭和57年9月～平成21年3月)

昭和43年3月 東京大学農学部農芸化学科卒業
昭和48年3月 東京大学大学院農学系研究科農芸化学
専門課程博士課程修了
昭和48年4月 東京大学農学部農芸化学科研究生
昭和57年9月 東京大学農学部農芸化学科助手
平成7年2月 米国ロックフェラー大学研究員
平成8年6月 東京大学大学院農学生命科学研究科講師
平成9年4月 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
所属：農学国際専攻 新機能植物開発学研究室
専門分野：植物栄養制御、不良土壌耐性作物

日野 明德 教授

(本学在職期間 昭和47年4月～平成21年3月)



昭和45年3月
東京大学農学部水産学科卒業
昭和47年3月
東京大学大学院農学系研究科
水産学専門課程修士修了
昭和47年4月
農学部水産学科助手
昭和57年12月 助教授

平成4年7月 農学部附属水産実験所教授
平成12年4月 大学院農学生命科学研究科教授
所属：生圏システム学専攻・生圏管理学大講座・水域保
全学専攻分野

専門分野：水域保全学、水産増養殖学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

1. 戸田御浜再生プロジェクトにおける現地環境調査。
第20回海洋工学シンポジウム講演論文集 OES-113、1-4
(2008)
2. 海産ワムシ類の培養ガイドブック（分担執筆）、日本
栽培漁業協会、2000
3. 干潟造成法「生態系の保全・創造」（分担執筆）、恒星
社厚生閣、2007

大学院経済学研究科・経済学部

神野 直彦 教授

(本学在職期間 平成2年10月～平成21年3月)



昭和44年6月
東京大学経済学部経済学科
卒業
昭和53年3月
東京大学大学院経済学研究科
応用経済学専攻修士課程修了
昭和56年9月
東京大学大学院経済学研究科
応用経済学専攻博士課程単位
取得退学

平成2年10月 東京大学経済学部助教授
平成4年4月 東京大学経済学部教授
平成8年4月 東京大学大学院経済学研究科教授
平成8年10月 東京大学評議員(平成10年9月まで)
平成15年10月 東京大学大学院経済学研究科長・経済
学部長(平成17年9月まで)

所属：現代経済学専攻 財政金融講座

専門分野：財政学、地方財政論

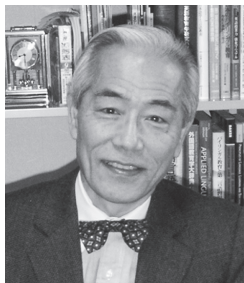
研究内容(代表的な著書や論文等)：

- ・『システム改革の政治経済学』1998年 岩波書店
- ・『地域再生の経済学』2002年 中央公論新社
- ・『財政学』2002年 有斐閣

大学院総合文化研究科・教養学部

岡 秀夫 教授

(本学在職期間 平成2年4月～平成21年3月)



昭和45年3月
広島大学教育学部卒業
昭和47年3月
広島大学大学院教育学研究科
修士課程修了
昭和50年3月
広島大学大学院教育学研究科
博士課程単位取得退学

昭和50年4月 九州大学教養部講師
昭和51年4月 九州大学教養部助教授
平成2年4月 東京大学教養学部助教授
平成4年8月 東京大学教養学部教授
平成8年4月 東京大学大学院総合文化研究科教授

所属：言語情報科学専攻、英語部会

専門分野：英語教育学、応用言語学

研究内容(代表的な著書や論文等)：

- ・C. ベーカー(著) 岡秀夫(編・訳)『バイリンガル教育と第二言語習得』大修館書店, 1996.
- ・K. ジョンソン・H. ジョンソン(著) 岡秀夫(監訳)『外国語教育学大辞典』大修館書店, 1999.
- ・東京大学外国語教育学研究会(F L T A)(編著)『外国語教育学研究のフロンティア—四技能から異文化理解まで』成美堂, 2009.

杉橋 陽一 教授

(本学在職期間 昭和56年4月～平成21年3月)



昭和44年6月
東京大学文学部独文科卒業
昭和47年3月
同大学大学院人文科学研究科
独文科修士課程終了
昭和47年10月
東京芸術大学音楽学部専任講
師

昭和53年12月 同大学助教授
昭和56年4月 東京大学教養学部助教授
平成4年6月 同大学教授、現在に至る。

所属：超域文化科学専攻・表象文化論コース

専門分野：ドイツ近代思想および文学、近代俳句研究。

研究内容(代表的な著書や論文等)：

- 『一角獣の変容』(朝日出版社)
- 『剥落する青空——細見綾子論』(白風社)
- 『快速リーディング・ニーチェ』(筑摩書房)

大貫 隆 教授

(本学在職期間 平成3年4月～平成21年3月)



昭和43年3月
一橋大学社会学部卒業
昭和47年3月
東京大学大学院人文科学研究
科西洋古典学専攻修士課程
修了
昭和49年11月～昭和54年7月
ヴュルツブルクおよびミュン
ヘン大学神学部留学
(神学博士)

昭和55年3月 東京大学大学院人文科学研究科西洋古
典学専攻博士課程満期退学

昭和55年4月 東京女子大学文理学部専任講師

昭和58年4月 東京女子大学文理学部助教授

平成3年4月 東京大学教養学部助教授

平成7年4月 同 教授

平成8年4月 東京大学大学院総合文化研究科 教授

所属：地域文化研究専攻

専門分野：新約聖書学、古代キリスト教文学

研究内容(代表的な著書や論文等)：

- ・Gemeinde und Welt im Johannesevangelium, Ein Beitrag zur Frage nach der theologischen und pragmatistischen Funktion des johanneischen "Dualismus", Neukirchen-Vluyn 1984.
- ・『イエスという経験』、岩波書店、2003年
- ・Heil und Erlösung. Studien zum Neuen Testament und zur Gnosis, Tübingen 2004.

山本 巍 教授

(本学在職期間 昭和56年4月～平成21年3月)



昭和45年3月
東京大学教養学部卒業
昭和47年3月
東京大学大学院人文科学研究
科哲学専門課程修士修了
昭和48年3月 博士課程退学
昭和48年4月
東京大学教養学部助手

昭和50年4月 茨城大学講師

昭和53年6月 茨城大学助教授

昭和56年4月 東京大学教養学部助教授

平成2年4月 同教授

所属：国際社会科学専攻

専門分野：哲学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

『ロゴスと深淵—ギリシア哲学探究—』

『受難の意味』（共著）

『人間的知恵—ヘラクレイトスを超えて—』

廣松 毅 教授

(本学在職期間 昭和47年4月～平成21年3月)



昭和44年3月
教養学部教養学科卒業
昭和47年3月
大学院経済学研究科修士課程
修了・経済学修士
昭和47年4月 教養学部助手
昭和54年4月
教養学部助教授

昭和57年8月～昭和59年3月

ハーバード大学エンチン研究所客員研究員

昭和62年5月 助教授(先端科学技術研究センター)

平成元年11月 教授(先端科学技術研究センター)

平成7年4月 教授(教養学部)

平成15年7月～平成17年9月

日本学術会議19期会員

平成17年12月～現在 同連携会員

所属：国際社会科学専攻、経済・統計部会

専門分野：統計学、数量経済分析

研究内容（代表的な著書や論文等）：

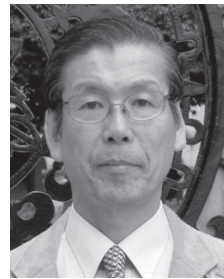
『情報経済のマクロ分析』東洋経済新報社

『経済時系列分析』多賀出版

『経済統計』新世社

大築 立志 教授

(本学在職期間 平成6年4月～平成21年3月)



昭和45年3月
東京大学教育学部(体育学健
康教育学科体育学専攻)卒業
昭和50年5月
東京大学大学院教育学研究科
体育学専門課程博士課程単位
取得満期退学

昭和50年6月 奈良女子大学講師(文学部)

昭和53年4月 奈良女子大学助教授(文学部)

昭和56年9月 教育学博士(東京大学)

平成6年4月 東京大学教授(大学院総合文化研究科生
命環境科学系)、現在に至る。

平成11年4月～平成13年3月

スポーツ・身体運動前期部会 主任

平成13年4月～平成14年3月 生命環境科学系 主任

平成7年6月～平成21年3月

総合文化研究科ヒトを対象とした実験研究に関する倫
理審査委員会委員長

所属：広域科学専攻生命環境科学系

専門分野：運動神経生理学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

「たくみ」の科学(朝倉書店、1988、単著)

「入門運動神経生理学」(市村出版、2003、共編著)

「運動と高次脳機能」(杏林書院、2005、共編著)

友田 修司 教授

(本学在職期間 昭和50年4月～平成21年3月)



昭和43年3月
東京大学理学部化学科卒業

昭和45年3月

東京大学大学院理学系研究科
修士課程修了

昭和50年6月

コーネル大学大学院化学教室
博士課程修了

(物理化学でPh.D.取得)

昭和50年4月 東京大学教養学部助手

昭和54年4月～56年3月

プリンストン大学博士研究員

昭和57年4月～平成2年3月 上智大学非常勤講師

昭和59年4月 東京大学教養学部助教授(化学)

平成3年4月

東京大学大学院教授(総合文化研究科生命環境科学系)

所属：広域科学専攻 生命環境科学系 化学部会

専門分野：量子化学、有機物理化学、タンパク質化学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

論文：

“The Exterior Frontier Orbital Extension Model”, S.

Tomoda, Chemical Review, 99, 1243-1263 (1999)

著書:

「基礎量子化学—軌道概念で化学を考える」 東京大学出版会 (2007)

「フロンティア軌道論で化学を考える」 講談社 (2007)

里見 大作 教授

(本学在職期間 昭和48年4月～平成21年3月)



昭和43年3月 教養学部卒業
昭和48年3月
大学院理学系研究科修了、理学博士
昭和60年4月
教養学部助教授
平成11年4月
大学院総合文化研究科教授、
進学情報センター担当

所属: 広域科学専攻生命環境科学系

専門分野: 神経生物学

研究内容 (代表的な著書や論文等):

- 1) Satomi,D.: Cation-binding Sites of Brain Microsomes. J.Biochem. 75, 1313-1320 (1974)
- 2) Satomi,D. and Kishimoto,Y.: Changes of Galactolipids and Metabolism of Fatty Acids in the Organotypic Culture of Myelinating Mouse Brain. Biochim. Biophys.Acta 666, 446-454 (1981)
- 3) Satomi,D.: Developmental Changes of Glutamate Decarboxylase and 2',3'-Cyclic Nucleotide 3'-Phosphodiesterase in the Organotypic Culture of Newborn Mouse Cerebellum. Zool.Sci. 9, 127-132 (1992)

繁樹 算男 教授

(本学在職期間 平成7年4月～平成21年3月)



1968年3月
東京大学教育学部卒業
1974年8月
University of Iowa,Ph.D.
修了
1975年7月
東北大学教育学部専任講師
1977年10月 同上助教授

1983年10月 東京工業大学工学部助教授

1990年4月 同上教授

1995年4月 東京大学教養学部教授

1996年4月 東京大学大学院総合文化研究科教授

現在に至る

専門分野: 計量心理学、ベイズ統計学

研究内容 (代表的な著書や論文等):

ベイズ統計入門 東京大学出版会
意思決定の認知統計学 朝倉出版
後悔しない意思決定 岩波書店

鹿児島 誠一 教授

(本学在職期間 昭和54年4月～平成21年3月)



昭和43年3月
理学部物理学科卒業
昭和48年3月
大学院理学系研究科物理学専
門課程博士課程修了
昭和48年4月
通商産業省工業技術院電子技
術総合研究所研究員

昭和53年4月

通商産業省工業技術院電子技術総合研究所主任研究官

昭和54年4月 教養学部助教授

昭和63年1月 教養学部教授

平成7年1月 低温センター長

平成8年4月 大学院総合文化研究科教授

所属: 広域科学専攻相関基礎科学系

専門分野: 物性物理学

研究内容 (代表的な著書や論文等):

「一次元電気伝導体」裳華房, 1982

「低次元導体」裳華房, 2000

「Control of Electronic Properties of Molecular Conductors by Uniaxial Strain」Chemical Reviews 誌 (American Chemical Society), 2004

鈴木 賢次郎 教授

(本学在職期間 昭和48年4月～平成21年3月)



昭和43年3月
東京大学工学部航空学科卒業
昭和48年3月
東京大学大学院工学系研究科
航空学専門課程博士課程満期
退学
昭和48年4月
東京大学助手(教養学部)

昭和52年4月 工学博士(東京大学)

昭和54年4月 東京大学助教授(教養学部)昇任

平成4年4月 東京大学教授(教養学部)昇任

平成13年4月～平成15年3月 東京大学評議員

所属: 広域科学専攻広域システム科学系情報・図形科学部会

専門分野: 図学

研究内容 (代表的な著書や論文等):

- ・図学と製図 [新訂判] (単行本, 共著), サイエンス社, 2001.
- ・Evaluation of Students' Spatial Abilities by a Mental Cutting Test - Review on the Surveys in the Past Decade, 2004.
- ・3D-CAD/CG 入門 - Inventor と 3ds Max で学ぶ図形科学 - (単行本, 共著), サイエンス社, 2008.

木畑 洋一 教授

(本学在職期間 昭和58年4月～平成21年3月)



昭和45年3月
東京大学教養学部卒業
昭和47年12月
東京大学大学院社会学研究科
博士課程中退
昭和47年12月
東京大学教養学部助手
昭和52年4月
東京外国語大学専任講師

昭和58年4月 東京大学教養学部助教授
平成4年4月 東京大学教養学部教授
平成8年4月 東京大学大学院総合文化研究科教授
平成17年2月～19年2月 東京大学大学院総合文化研究科長・教養学部長

所属：アメリカ太平洋地域研究センター
専門分野：国際関係史・イギリス帝国史
研究内容（代表的な著書や論文等）：
『支配の代償 英帝国の崩壊と「帝国意識」』東京大学出版会，1987
『帝国のたそがれ 冷戦下のイギリスとアジア』東京大学出版会，1996
『イギリス帝国と帝国主義 比較と関係の視座』有志舎，2008

大学院教育学研究科・教育学部

中田 基昭 教授

(本学在職期間 昭和55年4月～昭和60年8月)

昭和61年8月～平成21年3月
昭和49年3月 東京大学教育学部卒業
昭和55年3月 東京大学大学院教育学研究科博士課程
単位取得退学
昭和55年4月 東京大学助手(教育学部)
昭和60年8月 同上 退職
昭和61年8月 東京大学助教授(教育学部)
平成8年4月 教授(大学院教育学研究科)

所属：総合教育科学専攻 教育創発学コース
専門分野：授業研究、重障児研究、教育哲学、現象学
研究内容（代表的な著書や論文等）：
1. 重症心身障害児の教育方法（東京大学出版会、1984）
2. 現象学から授業の世界へ（東京大学出版会、1997）
3. 感受性を育む（東京大学出版会、2008）

大学院薬学系研究科・薬学部

海老塚 豊 教授

(本学在職期間 昭和49年4月～平成21年3月)



昭和44年3月 薬学部卒業
昭和49年3月
大学院薬学系研究科博士課程
修了 薬学博士
昭和59年8月
助教授(薬学部)
平成7年8月 教授(薬学部)
平成16年4月～平成18年3月
大学院薬学系研究科長・薬学
部長

所属：分子薬学専攻 生物有機化学講座 天然物化学分野
専門分野：天然有機化合物の生合成
研究内容（代表的な著書や論文等）：
1. Kushiro T., Shibuya M., Ebizuka Y.
Chimeric Triterpene Synthase. A Possible Model for
Multifunctional Triterpene Synthase. J. Am. Chem.
Soc., 121, 1208-1216 (1999) .
2. Kushiro T., Shibuya M., Masuda K., Ebizuka Y.
Mutational Studies on Triterpene Synthases.
Engineering Lupeol Synthase into b-Amyrin Synthase.
J. Am. Chem. Soc., 122, 6816-6824 (2000) .
3. Shibuya M., Xiang T., Katsube Y., Otsuka M.,
Zhang H., Ebizuka Y.
Origin of Structural Diversity in Natural Triterpenes:
Direct Synthesis of Seco-Triterpene Skeletons by
Oxidosqualene Cyclase. J. Am. Chem. Soc., 129,
1450-1455 (2007) .

大学院数理科学研究科

桂 利行 教授

(本学在職期間 平成4年4月～平成21年3月)



昭和47年3月
東京大学理学部卒業
昭和51年3月
東京大学院理学系研究科博士
課程退学
昭和56年2月
理学博士(東北大学)

昭和51年4月 助手(東北大学理学部)
昭和55年10月 助教授(横浜市立大学文学部)
平成4年4月 教授(東京大学大学院数理科学研究科)
(現職)
平成17年4月～平成21年3月 大学院数理科学研究科長
所属：数理代数学講座
専門分野：代数幾何学
研究内容（代表的な著書や論文等）：
(1) Families of supersingular abelian surfaces, (F.Oort
と共著), Compositio Math.,62 (1987) ,107-167.

- (2) On a stratification of the moduli of K3 surfaces,
(G.van der Geer と共著),
J. Eur.Math.Soc., 2 (2000) ,259-290.
(3) 代数学 I 群と環, 大学数学の入門, 東京大学出版会,
2004 年, 125 ページ

菊地 文雄 教授

(本学在職期間 昭和 48 年 4 月～平成 21 年 3 月)



昭和43年 3 月 工学部卒業
昭和48年 3 月
大学院工学系研究科修了・工
学博士
昭和48年 4 月
助手(宇宙航空研究所)
昭和49年 6 月
講師(宇宙航空研究所)

昭和51年 1 月 助教授(宇宙航空研究所)
平成元年 4 月 教授(教養学部)
平成 4 年 4 月 教授(大学院数理科学研究科) (現職)
所属: 離散数理学講座

専門分野: 数値解析、計算力学

研究内容 (代表的な著書や論文等):

- (1) Fumio Kikuchi (論文, 単著): Mixed and penalty formulations for finite element analysis of an eigenvalue problem in electromagnetism, Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering, Vol. 64 (1987) pp. 509-521.
- (2) 菊地文雄 (著書, 単著): 有限要素法の数理, 培風館 (1994) .
- (3) 菊地文雄 (著書, 単著): 有限要素法概説 (新訂版), サイエンス社 (1999) .

神保 道夫 教授

(本学在職期間 平成 12 年 4 月～平成 21 年 3 月)



昭和49年 3 月
東京大学理学部卒業
昭和51年 3 月
京都大学大学院理学研究科
修士課程修了
昭和61年 3 月
理学博士(東京大学)

昭和51年 4 月 助手(京都大学数理解析研究所)
昭和63年11月 助教授(京都大学理学部)
平成 4 年 4 月 教授(京都大学理学部)
平成12年 4 月 教授(大学院数理科学研究科) (現職)

所属: 数理解析学講座

専門分野: 数理解析学

研究内容 (代表的な著書や論文等):

論文

- (1) M.Sato, T.Miwa, M.Jimbo, Holonomic quantum fields III, Publ. RIMS, Kyoto Univ.15 (1979) 577-629.

- (2) M.Jimbo, A q-difference analogue of $U(\mathfrak{g})$ and the Yang-Baxter equation, Lett. Math. Phys. 10(1985) 63-69.

著書

- (3) Algebraic Analysis of Solvable Lattice Models (with T. Miwa), CBMS Regional Conference Series in Mathematics, 85,AMS, 1994

大学院新領域創成科学研究科

大澤 雅彦 教授

(本学在職期間 平成 12 年 4 月～平成 21 年 3 月)



昭和43年 3 月
千葉大学文理学部生物学科
卒業
昭和45年 3 月
東京大学大学院理学系研究科
植物学専門課程修士課程修了
昭和48年 3 月
同大学院博士課程単位取得
満期退学

昭和50年 4 月 東京農工大学農学部環境保護学科植生
管理学講座助手

昭和56年 6 月 千葉大学理学部助教授

平成 4 年 4 月 千葉大学理学部教授

平成12年 4 月 東京大学教授転任

所属: 自然環境学専攻 陸域環境学講座・生物圏機能学
分野

専門分野: 生態学

研究内容 (代表的な著書や論文等):

1. Ohsawa, M. (1984) Differentiation of vegetation zones and species strategies in the subalpine region of Mt. Fuji. Vegetatio, 57, 15-52.
2. Ohsawa, M. (1990) An interpretation of latitudinal patterns of forest limits in South and East Asian mountains. Journal of Ecology, 78, 326-339.
3. Ohsawa, M. and Kitazawa, T. (2009) Biocultural diversity and functional integrity of Japan's rural landscape. Bodenkultur 60 (1-4) : 37-46

松井 孝典 教授

(本学在職期間 昭和 53 年 6 月～平成 21 年 3 月)



昭和45年 3 月
東京大学理学部地球物理学科
卒業
昭和48年 3 月
東京大学大学院理学系研究科
地球物理学専門課程修士課程
修了

昭和51年 3 月 同大学院博士課程修了

昭和53年 6 月 東京大学理学部 助手

平成 4 年 4 月 東京大学理学部 助教授

平成 5 年 4 月 東京大学大学院理学系研究科 助教授

平成11年4月 東京大学新領域創成科学研究科 教授
所属：複雑理工学専攻・複雑系実験講座・惑星科学
専門分野：地球・惑星物理学、アストロバイオロジー
研究内容（代表的な著書や論文等）：

Matsui T., and H. Mizutani, Why is a minor planet minor?, Nature, 270, 506 - 507, 1977

Matsui T., and Y. Abe, Evolution of an impact - induced atmosphere and magma ocean on the accreting earth, Nature, 319, 303 - 305, 1986

Matsui T., and Y. Abe, Impact - induced atmospheres and oceans on Earth and Venus, Nature, 322, 526 - 528, 1986

和田 仁 教授

(本学在職期間 平成16年4月～平成21年3月)



昭和44年4月 東京大学工学部冶金学科卒業
昭和49年3月 同大学院工学系研究科
冶金専攻課程修了(工学博士)
昭和49年4月 科学技術庁金属材料技術
研究所電気磁気材料研究部

昭和52年9月 MIT材料学科/Fracis Bitter National Magnet Laboratory客員研究員

昭和56年1月 National Bureau of Standards 客員研究員

平成7年6月 科学技術庁金属材料技術研究所企画室長

平成9年4月 同強磁場ステーション総合研究官

平成14年4月 (独)物質・材料研究機構強磁場研究センター長

平成16年4月 東京大学新領域創成科学研究科物質系専攻教授

所属：基盤科学研究系 物質系専攻 マテリアル・機能設計学講座 ナノ構造設計学

専門分野：超伝導材料・超伝導強磁場応用

研究内容（代表的な著書や論文等）：

- 合金系超電導体の高磁界特性の改善とピニング挙動
和田仁, 伊藤喜久男, 太刀川恭治, 山田穰, 村瀬暁：
日本金属学会誌、1984年、48巻11号、1126-1131頁
- Critical Current Measurement Method on Nb3Sn Multifilamentary Wires
H. Wada, L.F.Goodrich, C. Walters and K. Tachikawa: Cryogenics, Vol.35 (1995) 1-126
- Materials Processing in Magnetic Fields
H. Wada and H.J. Schneider-Muntau:
World Scientific Publishing Co., (2005)

大学院情報理工学系研究科

杉原 厚吉 教授

(本学在職期間 昭和61年4月～平成21年3月)



昭和46年6月 東京大学工学部計数工学科卒業

昭和48年3月 東京大学大学院工学系研究科計数工学専門課程修士課程修了

昭和48年4月 東京大学・助手

昭和48年7月 通商産業省工業技術院電子技術総合研究所・研究官

昭和56年4月 名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻・助教授

昭和61年4月 東京大学工学部計数工学科・助教授

平成3年1月 東京大学工学部計数工学科・教授

平成13年4月 東京大学大学院情報理工学系研究科数理情報学専攻・教授

所属：数理情報学専攻・数理情報学応用大講座

専門分野：数理工学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

K. Sugihara: Machine Interpretation of Line Drawings. MIT Press, Cambridge, 233pp., 1986.

Kokichi Sugihara and Masao Iri: Construction of the Voronoi diagram for "one million" generators in single-precision arithmetic. Proceedings of the IEEE, vol. 80, no. 9 (September 1992), pp. 1471-1484.

A. Okabe, B. Boots, K. Sugihara and S.-N. Chiu: Spatial Tessellations — Concepts and Applications of Voronoi Diagrams, Second Edition. John Wiley and Sons, Chichester, 607pp., 2000.

館 暲 教授

(本学在職期間 昭和48年4月～昭和50年4月、平成元年9月～平成21年3月)



昭和43年3月 東京大学工学部卒業

昭和48年3月 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了・工学博士

昭和48年4月 東京大学工学部助手

昭和50年5月 通商産業省工業技術院機械技術研究所

昭和53年4月 主任研究官

昭和54年7月

科学技術庁派遣長期在外研究員としてマサチューセッツ工科大学(MIT)客員研究員(昭和55年7月まで)

昭和60年10月 ロボティクス部遠隔制御課長

平成元年9月

東京大学先端科学技術研究センター助教授(併任)

平成3年1月

東京大学先端科学技術研究センター助教授

平成4年4月 教授

平成6年4月

東京大学工学部計数工学科教授

平成13年4月

東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻教授、現在に至る

所属：システム情報学専攻

専門分野：ロボット、バーチャルリアリティ

研究内容(代表的な著書や論文等)：

・Susumu Tachi, Kazuo Tanie, Kiyoshi Komoriya and Minoru Abe: Electrocutaneous Communication in a Guide Dog Robot (MELDOG), IEEE Transactions on Biomedical Engineering, Vol.BME-32, No.7, pp.461-469 (1985)

・Susumu Tachi and Ken-ichi Yasuda: Evaluation Experiments of a Telexistence Manipulation System, Presence, Vol.3, No.1, pp.35-44 (1994)

・Susumu Tachi, Naoki Kawakami, Hideaki Nii, Kouichi Watanabe and Kouta Minamizawa: TELEsarPHONE: Mutual Telexistence Master Slave Communication System based on Retroreflective Projection Technology, SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration, Vol.1, No.5, pp.335-344 (2008)

大学院情報学環

原島 博 教授

(本学在職期間 昭和48年4月～平成21年3月)



昭和43年3月

東京大学工学部卒

昭和48年3月

東京大学大学院工学系研究科
博士課程修了

昭和48年4月 工学部講師

昭和50年4月 助教授昇任

平成3年1月 教授昇任

平成14年4月～平成16年3月

大学院情報学環長・学際情報学府長

所属：大学院情報学環(大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻兼任)

専門分野：コミュニケーション工学、顔学

研究内容(代表的な著書や論文等)：

情報と符号の理論(岩波書店)

画像情報圧縮(オーム社)

顔学への招待(岩波書店)

地震研究所

島崎 邦彦 教授

(本学在職期間 昭和45年4月～平成21年3月)



昭和43年3月 理学部卒業

昭和45年3月

大学院理学系研究科修士課程
修了

昭和45年4月

助手(地震研究所)

昭和49年3月

理学博士(東京大学)

昭和49年9月～51年6月 カリフォルニア工科大学研究員

昭和55年10月 助教授(地震研究所)

平成元年6月 教授(地震研究所)(現職)

平成7年12月～現在

地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会
会長

平成13年4月～現在

地震予知連絡会副会長

平成20年1月～現在

交通政策審議会気象分科会委員長

所属：地球流動破壊部門

専門分野：地震発生予測学

研究内容(代表的な著書や論文等)：

Shimazaki, K., and T. Nakata, Time-predictable recurrence model for large earthquakes, Geophys. Res. Lett., 7, 4, 279-282, 1980.

Shimazaki, K., Small and large earthquakes: the effects of the thickness of seismogenic layer and the free surface, Geophysical Monograph, 37, 209-216, 1986.

島崎邦彦, 活断層で発生する大地震の長期評価: 発生頻度推定の課題, 活断層研究, 28, 41-51, 2008.

佃 為成 准教授

(本学在職期間 昭和61年1月～平成21年3月)



昭和44年3月 理学部卒業

昭和46年3月

大学院理学系研究科修士課程
修了

昭和48年7月

助手(京都大学防災研究所)

昭和55年3月

理学博士(東京大学)

昭和61年1月 助教授(地震研究所)

平成19年4月 准教授(地震研究所)(現職)

所属：地震地殻変動観測センター

専門分野：地震学・地震予知論

研究内容(代表的な著書や論文等)：

Tsukuda T., K. Gotoh and O. Sato, Deep groundwater discharge and ground surface phenomena, B.E.R.I., Univ. Tokyo, 80, 105-131, 2005.

Tsukuda, T., Radon-gas monitoring by gamma-ray measurements on the ground for detecting crustal activity changes - Preliminary study by survey method -, B.E.R.I., Univ. Tokyo, 82, 227-241, 2008.
佃為成：地震予知研究ノート No.1,2,3,4, 2007-2009.

東洋文化研究所

玄 大松 准教授

(本学在職期間 平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月)



平成 3 年 2 月
外国語大学政策科学大学政治
外交学科卒業
平成 9 年 3 月
東京大学大学院法学政治学研
究科修士課程修了
平成 14 年 3 月
東京大学大学院法学政治学研
究科博士課程単位取得退学

平成 18 年 4 月 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研
究情報センター助教授

所属：東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター比較
文献資料学分野 広域アジア資料研究領域

専門分野：国際政治・日韓関係・アジア比較世論調査

研究内容（代表的な著書や論文等）：

- ・ Historical Perceptions of Korea and Japan (Seoul: Nanam Publishing House, 2008)
- ・ “Korea: Lives and Civic virtue in Transition,” in Takashi Inoguchi, [et al.] (eds.) Human Beliefs and Values in Striding Asia (Akashi Shoten, 2006) pp. 51-81.
- ・ 領土ナショナリズムの誕生—「独島／竹島問題」の政治学（ミネルヴァ書房、2006 年）

社会科学研究所

廣渡 清吾 教授

(本学在職期間 昭和 48 年 4 月～平成 21 年 3 月)



昭和 43 年 3 月
京都大学法学部卒業
昭和 43 年 4 月
京都大学助手
昭和 48 年 4 月
助教授(社会科学研究所)
平成 3 年 4 月
教授(社会科学研究所) (現職)

所属：比較現代法部門

専門分野：ドイツ法・比較法社会論

研究内容（代表的な著書や論文等）：

- (1) 『法律からの自由と逃避—ワイマル共和制下の私法学』日本評論社、1986 年
- (2) 『統一ドイツの法変動—統一の一つの決算』有信堂、1996 年
- (3) 『比較法社会論研究』日本評論社、2009 年

生産技術研究所

渡邊 勝彦 教授

(本学在職期間 昭和 49 年 4 月～平成 21 年 3 月)



昭和 43 年 3 月
工学部卒業
昭和 49 年 3 月
工学系研究科博士課程修了
昭和 49 年 4 月
講師(生産技術研究所)
昭和 51 年 7 月
助教授(生産技術研究所)

平成 3 年 6 月 教授 (生産技術研究所)

所属：基礎系部門 材料システム学分野

専門分野：固体材料強度学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

強度解析学 [I] (連続体力学的アプローチ) (共著),
総合強度学講座 3, オーム社, 1985

材料力学 (編著), 培風館, 2006

Crack Energy Density and Energy Release Rate for Piezoelectric Material (共著), International Journal of Solids and Structures, Vol.44, Elsevier, pp.3904-3919, 2007

藤田 隆史 教授

(本学在職期間 昭和 49 年 4 月～平成 21 年 3 月)



昭和 44 年 5 月
工学部卒業
昭和 49 年 3 月
工学系研究科博士課程修了
昭和 49 年 4 月
助教授(生産技術研究所)
平成 2 年 7 月
教授(生産技術研究所)

平成 18 年 4 月 産学連携本部長

平成 19 年 4 月 統括長 (産学連携系)

平成 19 年 7 月 本部統括長 (産学連携系) 兼務

所属：機械・生体系部門 機械制御工学分野

専門分野：スマート構造学

研究内容（代表的な著書や論文等）：

免震構造、高層建物のアクティブ制振システム、精密機器のアクティブ微振動制御システム、スマート構造などの振動制御技術に関して、先進的かつ実用的な開発研究を民間企業と共同で実施し、多くの装置・システムを実用化。平成 16 年には建築物免震用積層ゴムの研究により文部科学大臣賞・科学技術功労者を受賞。平成 19 年には経済産業大臣表彰・原子力安全功労者を受賞。

分子細胞生物学研究所

大坪 久子 講師

(本学在職期間 昭和57年11月～平成21年3月)



昭和43年3月
九州大学薬学部卒業
昭和45年5月
九州大学大学院薬学研究科修了(昭和50年 薬学博士)
昭和45年4月
金沢大学癌研究所 助手

昭和45年5月 New York州立大学Stony Bro校 博士研究員

昭和54年10月 同リサーチ・アシスタント・プロフェッサー

昭和57年11月 本学助手(応用微生物研究所・生物物理研究部門)

平成5年4月 同上助手(分子細胞生物学研究所・染色体動態研究分野)

平成12年4月 講師(現職)

平成18年11月 北海道大学女性研究者支援室 客員教授

所属：分子細胞生物学研究所 農学生命科学研究科応用生命工学専攻

専門分野：転移生遺伝因子(トランスポゾン)の転移機構とゲノム動態の研究

研究内容(代表的な著書や論文等)：

1. Rice retroposon, p-SINE and its use for classification and identification of *Oryza* species. in the Series: Biotechnology in Agriculture and Forestry, eds. A. Hirai et al., Springer, Germany (2008)

2. Ohtsubo, H., and Ohtsubo, E. Nucleotide sequence of an insertion element, IS γ . Proc. Natl. Acad. Sci. USA 75: 615-619 (1978).

3. Ohtsubo, H., Nyman, K., Doroszkiewicz, W., and Ohtsubo, E. Multiple copies of iso-insertion sequences of IS γ in the *Shigella dysenteriae* chromosome. *Nature* 292: 640-643 (1981).

物性研究所

石本 英彦 教授

(本学在職期間 昭和53年4月～平成21年3月)



昭和43年3月
東京大学工学部物理工学科卒業
昭和45年3月
東京大学大学院工学系研究科物理工学専門課程修士課程修了

昭和48年1月 東京大学大学院工学系研究科物理工学専門課程博士課程退学

昭和48年2月 高エネルギー物理学研究所助手

昭和53年4月 東京大学物性研究所助教授

平成3年3月 東京大学物性研究所教授

所属：極限環境物性研究部門

専門分野：低温物理

研究内容(代表的な著書や論文等)：

Minority spin condensate in the spin-polarized superfluid ^3He A $_1$ phase, *Nature* 444, 909 (2006).

Competition of Multiple Spin Exchanges in Submonolayer Solid ^3He , *Phys. Rev. Lett.* 81, 2478 (1998).

Magnetization of hcp solid ^3He , *Phys. Rev. Lett.* 55, 1490 (1985).

先端科学技術研究センター

伊福部 達 教授

(本学在職期間 平成14年7月～平成21年3月)



昭和44年3月

北海道大学工学部卒業

昭和46年9月

北海道大学工学研究科退学

昭和46年10月

助手(北海道大学応用電気研究所)

昭和53年4月

助教授(北海道大学応用電気研究所)

昭和59年4月 客員助教授(米国スタンフォード大学(文部省在外研究員, 10ヶ月))

平成元年 教授(北海道大学応用電気研究所(現：電子科学研究所))

平成14年7月 教授(東京大学先端科学技術研究センター)(現職)

平成19年4月 北海道大学名誉教授

所属：人間情報工学分野、兼任：情報理工学系研究科

専門分野：福祉工学, 生体工学, 音響学

研究内容(代表的な著書や論文等)：

「音声タイプライタの設計」(単著), CQ出版(1983)

「音の福祉工学」(単著), コロナ社(1997)

「福祉工学の挑戦－身体機能を支援する科学とビジネス－」(単著), 中央公論新社(2004)

1月14日（水）、教育学研究科恒例の冬の留学生懇談会を医学部教育研究棟13階のレストラン「カポ・ペリカーノ」で開催した。出席者は、留学生、外国人研究員、日本人学生、教職員あわせて約60名、美しい夜景も楽しみつつ、和やかな交流を行うことができた。



歓談のひとつとき

金子元久研究科長の歓迎の挨拶の後、おいしい料理と飲み物を楽しみながら歓談。その合間には、日本人大学院生と留学生によるバイオリンとチェロの合奏があり、さらに留学生担当職員によるマジックショーも披露されて会は大いに盛り上がった。



バイオリンとチェロのアンサンブルを楽しむ

春と冬の2回開かれる留学生懇談会は、年1回の留学生旅行と並んで、普段は各コース・研究室別に研究に専念することの多い留学生・外国人研究員にとって、他コースの大学院生や教員と語り合う貴重な交流の場になっている。



最後に集合写真

1月21日（水）に、弥生講堂において、社会科学研究所のワーク・ライフ・バランス推進研究プロジェクトが「人を活かす企業が伸びる：新しい『報酬』としてのWLB支援」と題したセミナーを開催した。

セミナーの第1部では、研究報告として「夫婦の働き方からみたWLBに関する多様なニーズ」、「働き方とWLBに関する社員の意識」、「アメリカにおけるWLB支援プロジェクト」、「事例からみた働き方の見直し：取り組みの方法」の4つが、第2部では参加企業による「わが社におけるWLB支援」と題するシンポジウムが行われた。懇親会を含めて、民間企業の人事担当者や行政関係者など約330名という多数の参加があった。

第1部では、小淵優子内閣府特命担当大臣が来賓として出席され、「経済情勢が厳しいこのような時こそ、社員の役割や業務の流れを見直し、労働時間の短縮と経営の効率化を実現するための好機です。『明日への投資』という視点に立って、ワーク・ライフ・バランス推進に積極的に取り組んでいただきたい」、また「この研究プロジェクトの成果を広く社会に発信し、企業における取組を後押ししていくとともに、働き方の見直しに向けて取り組んでいただきたい」と挨拶された。

同プロジェクトは、アメリカンホーム保険会社、アリコジャパン、オリックス、資生堂、東芝、博報堂の民間企業6社との共同研究・委託研究として2008年10月に2年半の研究としてスタートしたもので、現在も10社まで参加企業を募集している。

プロジェクトのミッションは、①日本におけるWLB推進・研究拠点の形成、②産業界や個別企業に対する、WLB支援の必要性、取組み方法、企業経営・人材活用への効果・影響などに関する情報提供、③WLB推進に関する「モデル事業」の実施、④WLB支援に関する海外の研究機関などとの情報交換・連携、⑤WLB支援推

進に関する政策提言活動などである。

今回のセミナーを含めた活動実績や研究者などについてはホームページを参照していただきたい。

<http://wlb.iss.u-tokyo.ac.jp/>



キックオフセミナーで挨拶する小淵大臣

東洋文化研究所

第4回アジア古籍保全講演会を開催

1月28日（水）、薬学系研究科総合研究棟講堂において、東洋文化研究所主催による「第4回アジア古籍保全講演会」が開催された。

この講演会は、学内外に残された貴重な古籍資料の保存に取り組む関係者の意識と技能の向上の一助になるよう、平成17年度から開催しているものである。4回目となる今回は、学内外から研究者や図書館・室職員、一般市民など131名の参加があった。

関本照夫東洋文化研究所長の挨拶ではじまった講演会は、池本幸生東洋文化研究所教授の司会のもと、内田俊秀氏（京都造形芸術大学芸術学部教授）が、平常時に災害発生に対して準備を行うことと、発生時にどのように対応し復旧をすすめていくかについて「災害と資料保存」の講演を行った。続いて、稲葉洋子氏（大阪大学附属図書館利用支援課長）の講演「震災時の資料収集と情報発信～『震災文庫』の挑戦～」では、自身が神戸大学在職中にかかわった神戸大学「震災文庫」の取り組みについて、阪神・淡路大震災の際の写真などを織り交ぜながら説明された。

午後は、はじめにペーパー・コンサバターで駿河台大学非常勤講師の坂本勇氏による講演「必要な、複合災害対策型の『資料保存』～インドネシア・スマトラ沖津波災害事例から学ぶ」があり、インドネシアでの津波災害により被災した資料の修復に現地で携わった経験をもとに、初期対応の重要性が話された。東洋文化研究所図書室からは「東洋文化研究所図書室の資料移転と保全活動」と題し、建物の耐震補強工事に伴う蔵書移転作業の経緯や、資料保存場所における環境調査の概要、平成17年度から新規教育研究事業として実施された「アジア貴重古籍の電子図書館建設と保全事業」についての発

表が行われた。

参加者からは「自分でできることから取り組んでみたい」「日常の仕事のつみ重ねが災害時にものを言うのだろうと感じた」（いずれもアンケートに寄せられた意見）などの声があり、特に資料保全にかかわる者には役立つ内容となった。

開催にあたっては、会場の利用について薬学系研究科の関係者各位にご配慮いただいた。厚くお礼申し上げる。



東文研図書室による発表



講演者らによる総合討論

生産技術研究所

窪 謙佑さん（大学院工学系研究科応用科学専攻修士1年）、「第6回東京大学学生発明コンテスト・発明大賞」受賞

1月30日（金）16時30分から、本学駒場キャンパスのファカルティハウスで「第6回東京大学学生発明コンテスト」の表彰式が行われた。このコンテストは、学生が発明や知的財産権に対する理解を深めることを目的に、生産技術研究所・産学連携委員会（委員長：桑原雅夫教授）、産学連携本部、財団法人生産技術研究奨励会（TLO）の共催で企画され、今回で6回目を迎える。

今年度の応募は全部で15件であったが、その中から、窪謙佑さんが「発光によるビタミンC検出法及び定量法」で、発明大賞を受賞した。発明に至った経緯について、窪謙佑さんは以下のように述べている。



発明大賞受賞の喜びを語る窪謙佑さん

「今回のコンテストで私は大きく分けて『発光によるビタミンCの定量法』と『ビタミンCのバイオイメーキング』という二つの技術について発表させて頂きました。ビタミンC定量法に関してはゼロからの発明という訳ではなく、これまでの技術を組み合わせ、試行錯誤と改良を重ねた結果得られた成果です。一方、既存のビタミンC定量法には無い、本発明の特長を生かして何かに応用できないかと考え、思い至ったのがビタミンCバイオイメーキングでした。様々な論文を調べていく中で本発明の特長がこれまで不可能だったビタミンCバイオイメーキングを実現する上で非常に有利に働くことに気付いたのです。既存の技術を改良することによって全く新しい技術を生み出せることを知り、発明は発明の上に成り立っているのだと実感しました。」

今回の発明コンテストでは、その他、生産技術研究所長賞に小嶋竜さん（大学院工学系研究科化学生命工学専攻修士2年）の「細胞内の特定部位へ送達可能な高分子マテリアル」、産学連携本部長賞に小篁剛さん（大学院理学系研究科化学専攻博士3年）の「スピノコートによる無修飾フタロシアニン製膜法の開発」、奨励賞には吉松英彦さん（医学部6年）の「革新的な食品冷凍技術（磁気共鳴現象）を応用した病理凍結切片作成法と細胞膜タンパク質保存方法」と、森久祐弥さん（大学院工学系研究科マテリアル工学専攻修士2年）の「小型携帯音楽機器を用いた運動記録システム」の発明が、それぞれ選ばれ、賞とともに、副賞（金一封と上位3賞にはニコンの各種カメラ）が授与された。

今回の応募のほとんどは、自分の研究に直結したものや、専門分野に関するものが多く、日用品の発明はわずかに5件であった。次回は、ちょっとしたアイデアでもコンテストに応募できるように、学生諸君がより一層気軽に参加できるコンテストを企画したい。



受賞者と主催者の集合写真

本コンテストの詳細は、発明コンテストのホームページ（<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>）に掲載されている。

医学部附属病院
 大学病院医療情報ネットワーク設立
 20周年行事開催

大学病院医療情報ネットワーク（UMIN：University hospital Medical Information Network）は、医学部附属病院内にセンターが設置され、インターネットを介して、すべての医学・医療関係者へ研究、教育、診療の各分野をカバーする多くの情報サービスを提供している。医学・医療関係者には広くその存在が広く知られている、その利用登録者数は約30万名、月間Webアクセス件数は4千万件を超えている。

1月30日（金）にUMIN設立20周年記念行事（記念式典、記念講演、記念パーティ）が本学内で開催された。記念式典は、武谷雄二医学部附属病院長の開会の挨拶に始まり、本学を代表して、平尾公彦理事・副学長、UMIN協議会を代表して、五十嵐徹也UMIN協議会長の挨拶が行われた。続いて、文部科学省の新木一弘医学教育課長、日本医学会の高久史磨会長、国立病院機構の矢崎義雄理事長、国立大学附属病院長会議の河野陽一常置委員長よりの祝辞が贈られた。最後に木内貴弘医学部附属病院UMINセンター長によるUMINの活動報告が行われ、記念式典を終了した。

続いて行われた記念講演会では、UMINを積極的に活用してきた関係者による下記の記念講演が行われた。

演題一 UMIN事始め

開原成允（国際医療福祉大学大学院長、元東京大学医学部附属病院中央医療情報部教授）

演題二 オンライン演題登録事始め

矢崎義雄（国立病院機構理事長、元日本循環器学会理事長）

演題三 UMINを活用した大規模臨床研究

桐野高明（国立国際医療センター総長、元日本脳神経

外科学会会長)

演題四 看護系学会とUMIN

村嶋 幸代 (東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻長、元日本看護科学学会理事)

演題五 オンライン医師臨床研修評価システムEPOCについて

田中雄二郎 (東京医科歯科大学医学部附属病院臨床教育研修センター教授、国立大学附属病院長会議常置委員会EPOC運営委員長)

演題六 オンライン歯科臨床研修評価システム(DEBUT)

侯木志朗 (東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科臨床研修センター教授、国立大学医学部附属病院長会議常置委員会歯科医師臨床研修問題ワーキングチーム座長)

最後の記念パーティは、本学医学系研究科の清水孝雄研究科長の挨拶で始まり、日本歯科医学会の江藤一洋会長、国立情報研究所の坂内正夫所長の祝辞の後、にぎやかに会食・懇談が行われ、盛会裏に終了した。



武谷病院長(左)と平尾理事・副学長(右)の挨拶

大学院総合文化研究科・教養学部

三鷹国際学生宿舎生、三鷹市民駅伝大会で快走!

晴天に恵まれた2月8日(日)、三鷹国際学生宿舎の有志が三鷹市民駅伝大会に参加し、沿道につめかけた市民の声援の中を快走した。今年で17回目を迎えた同大会は、三鷹市内13.3kmを4人の走者で襷(たすき)をつなぐ市民駅伝大会である。三鷹国際学生宿舎からは、留学生チームと日本人チームの2チームが今回初めて参加した。当日は全200チームの参加があったため、中継所が大混雑することもあったが、宿舎からのボランティアによる協力もあり、両チームとも無事襷をつなげることができた。



大混雑する中継所

留学生で構成された「東京大学AIKOM」チームはタイム55分17秒で54/200位、大学院生・学部生で構成された「東大三鷹寮」チームはタイム57分06秒で74/200位とそれぞれ健闘したが入賞には及ばず、来年以降のさらなる飛躍を誓った。



沿道の声援の中を走りぬげるAIKOM生、サンドロさん

参加した学生からは「三鷹市民の大歓声の中、走れて気持ちよかった」「院生や留学生の方と一緒に走れて楽しく、いい経験になった」「日本に来て最高の思い出になった」「3月で宿舎を去るので最後に仲間とチームで走ることができて良い記念になった」といった感想が寄せられ、初めてつないだ襷を握りしめ、充実した表情を浮かべていた。また今回参加した留学生は、駅伝という日本の伝統競技に初めて参加し、駅伝の由来やチーム精神に理解を深めることができた。

三鷹国際学生宿舎には、約180人の留学生を含む600人近い学生が生活しており、歓送迎パーティーや季節行事、日常生活などを通して活発な国際交流の場となっている。今回の市民駅伝は日本人学生・留学生が襷をつないでだけでなく、なかなか交流の機会が持てない地元市民との親睦を深める意味でも非常に有意義な大会となった。



三鷹市役所で選手・サポートメンバー揃っての記念撮影



ワークショップ議事進行風景

海洋研究所

部局

第1回「東南アジア域における海洋科学研究に関する将来構想ワークショップ」開催される

2月12日(木)から14日(土)にかけて、第1回「東南アジア域における海洋科学研究に関する将来構想ワークショップ」が海洋研究所で開催された。

海洋研究所は、現在アジア5カ国(インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム)との日本学術振興会拠点大学交流事業多国間交流「沿岸海洋学」(平成13年度から22年度)を実施している。今回のワークショップでは、平成22年度に同事業が終了した後の海洋科学研究プロジェクトの立案について、日本学術振興会の「アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業」の支援のもと、アジア各国の研究者・行政官等を招聘し、国内の研究者等を含めて40名を超える参加者のもと、発表、議論した。気候変化による海水準変動や衛星から見た藻場等の沿岸環境変化、海洋環境汚染指標について、多分野から統合的に取組む方向性が話し合われた。

各国と日本の研究者との個別の議論の時間も設けられ、具体的な研究プロジェクトについて進展が見られた3日間だった。また、会議終了後には、外国人研究者を中心とした参加者20名が晴海埠頭に停泊中の学術研究船「白鳳丸」の見学会を行い、好評であった。

第2回ワークショップは、10月29日(木)にベトナムで開催されることが決まった。西部太平洋域における海洋科学の諸問題に対応する東南アジア研究者ネットワークの構築が期待されている。



ワークショップ参加者の集合写真



白鳳丸見学の様子

大学院理学系研究科・理学部

大学院理学系研究科・理学部教職員 と留学生・外国人研究者との懇親会

2月18日(水)18時からスカイレストランブルークレール精養軒(医学部附属病院内)で大学院理学系研究科・理学部の教職員と留学生・外国人研究者との懇親会が開催され、留学生・客員研究員とその家族、及び教職員で合わせて62名の参加があった。山本研究科長の英語による歓迎の挨拶と乾杯の音頭の後、料理や飲み物を手に歓談が始められ、和やかな雰囲気の中、美味しい料理と窓の外の夜景と共に参加者同士の会話も弾んだ。会半ばにルーマニアからの留学生イリエシュ・ラウレアン(Ilies Laurean)さんと英国からの外国人客員研究員ジョナサン・タイラー(Jonathan Tyler)さんの英語によるスピーチが行われ、理学系研究科での研究生活について自身の経験からアドバイスを披露した。また、研究科長にもご寄附頂いた豪華賞品付きの全員参加のゲーム(クイズヘキサゴン)や留学生と職員によるダンシング・クイーンの歌と踊りで会は大いに盛り上がり、20時に村尾国際交流委員長の心温まる閉会の挨拶で終了した。今回は年末・年始に学部留学生3名のショートホームステイを実施した際に学生の受入れでお世話になったホストファミリーの方達にも学内外からご参加頂き、感謝の意を表すると共に、留学生や研究員と共に楽しい時間を過ごして頂いたようである。



全員で記念撮影

大学院総合文化研究科・教養学部

「理想の教育棟新営工事安全祈願祭」 举行される

2月20日(金)10時から駒場Iキャンパス理想の教育棟建設地内において、「大学院総合文化研究科・教養学部理想の教育棟新営工事安全祈願祭」が執り行われた。

同棟は、理想の教養教育の追求と実現に向け、森ビル株式会社代表取締役社長森稔氏より寄附を受け、この度第I期棟の建設を開始する運びとなったものである。

式典は、総合文化研究科の長谷川壽一副研究科長の開式の辞ではじまり、森社長、小宮山宏総長、浅島誠理事・副学長、山影進総合文化研究科長、小島憲道前総合文化研究科長及び桂利行数理科学研究科長による鍬入れ式が催され、工事の安全祈願が行われた。

その後、山影研究科長の式辞、小宮山総長の挨拶が行われ、森社長からの祝辞では、同棟への今後の期待が込められたお言葉をいただいた。

式典には濱田純一理事・副学長、各研究科長及び関係教職員等約50名が出席し、11時過ぎに盛況のうちに閉会した。また、安全祈願祭終了後、駒場ファカルティハウスのルヴェンソールにおいて森社長、小宮山総長を始めとして、安全祈願祭に参加されたメンバーで昼食会が行われ、和やかな歓談が行われた。



鍬入れ(左から小島憲道前総合文化研究科長・教養学部長、浅島誠理事・副学長、森稔森ビル株式会社代表取締役社長、小宮山宏総長、山影進総合文化研究科長・教養学部長、桂利行数理科学研究科長)

医学部附属病院

「附属病院 外来棟・中央診療棟での 防災訓練」が実施される

2月25日(水)16時30分から、「附属病院 外来棟・中央診療棟での防災訓練」が、教職員・ボランティア含め約100名が参加して実施された。

今回の訓練は、外来棟に関しては前年に一度実施したが、中央診療棟については過去一度も防災訓練を行っていないため、外来棟・中央診療棟併せて実施された。訓練内容は、外来棟はトリアージ・救護訓練、中央診療棟は避難訓練を行った。

想定としては、東京湾付近でM7直下型地震が発生、震度5強の激震が約10秒後に東大病院を襲うケースを想定し、緊急地震速報一斉警告音を鳴らすところから始まった。

警告音鳴動後、直ちに自分の身の安全確認をし、患者様へは警戒姿勢をとるように指示した。揺れが収まると職員はラウンジに集合し、リーダーの指示の下、役割分担と役割内容の指示を受けた。役割を指示された職員は、人と物の被害状況をチェックすると同時に、負傷してい

る職員・患者様を発見し、トリアージ後、処置室に搬送し処置を行った。その後、建物倒壊の恐れありとの判断で全員避難を行い、全員避難確認後終了となった。

中央診療棟では、内視鏡室・透析室において避難訓練を行った。警告音鳴動後、直ちに自分の身の安全確認をし、患者様へは警戒姿勢をとるように指示した。揺れが収まると、リーダーにより役割分担・内容の指示を受け、人と物の被害状況確認を行ったが、火災発生・建物の壁亀裂が発覚し、全員避難を行い、全員避難確認後終了となった。

災害拠点病院に指定されている附属病院は、地域の医療救護活動の重要な拠点となることが期待されている。外からの傷病者受入をする前には、まず院内の患者様を適切に処置・避難させることが必須である。

今回の防災訓練で浮き彫りとなった問題点・反省点を踏まえ、緊急地震速報への対応や、一層の防災意識の高揚を図るものである。



集合したスタッフへの役割分担の任命



トリアージ・救護訓練

— 連載テーマ&執筆部署募集告知 —

学内広報で 連載を始めませんか？

学内広報では、連載の記事テーマとその執筆部署を随時募集しています。興味深い読み物を連載することにより、読者の「執筆部署への好感度・理解度」は確実にアップします。皆さんの部署でも、ぜひ連載を始めてみませんか？

1. 制作方法

① テーマ・構成の決定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することになっています。まずは、本部広報グループに気軽にご相談ください。連載に馴染まないテーマでない限り、対応します。テーマが決まったら執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをして連載の構成を決めていきます。「読み物」として機能することを念頭に置き、単なる「部署発のニュース」という形にならないよう、構成を考えていきます。掲載スペースは2分の1ページまたは1ページです。

② 連載ワクのデザイン制作

決定した構成に合わせて、連載デザインのワクをPower Point等で制作します。執筆部署に原案を作っていただき、編集スタッフとともにブラッシュアップしていきます。

③ 毎回の原稿執筆

テーマ・構成に沿った原稿を毎回、本部広報グループにお送りいただけます。お送りいただく形式は、基本的にPower Pointのワクに入れた形をお願いします。また、文字要素だけでなく、写真や表等を入れる構成の場合は執筆部署に毎回のページデザインを制作していただけます。もちろん、編集スタッフもページデザイン制作の相談に応じます。

（学外または他部署のホームページ等から写真・図・イラスト等を転用する場合は著作権に十分留意し、必ず先方の許諾を得てからご使用ください）

④ 校正

基本的に校正していただく時間がないので、原稿をお送りいただく時点で、誤字脱字等のないよう十分にご確認をお願いしています。

⑤ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布することも可能です。

2. 締切日

最初に連載テーマ・構成を決める際には約1か月ほどの期間を要します。以降、毎回の原稿締切日は通常の学内広報締切日と同じです。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム
TEL：03-3811-3393 内線22031
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



北京大學との起業教育プログラム学生交流会議を 本学で開催(2月19日~21日)

学生起業家育成教育プログラム「東京大学アントレプレナー道場」の国際化を推進

昨年11月に「東京大学アントレプレナー道場」第4期優秀上位4チームの10名の本学学生が北京大學を訪問する形でスタートした両大学の起業教育プログラム学生交流は、今回は北京大學学生を本学に招いて3日間のプログラムが行われました。

2月19日(木)の歓迎式典では、浅島誠理事・副学長から東京大學を代表して歓迎挨拶があり、この中で、北京大學・東京大學のこれまでの緊密な交流に触れ、この起業教育プログラム間の交流が継続的なものとなって、さらに両大学の関係を深めるとともに、相互に刺激し合いながら、アジアひいては世界のイノベーション創出に寄与する若い起業家の育成に貢献することが重要であるとの指摘がなされました。

北京大學の張彦先生(北京大學校務委員会副主任・教授)の挨拶の中では、日本・中国を代表する両大学の交流、とりわけ起業教育に係る大学間交流・学生交流の意義は極めて大きいとの指摘がなされました。



2月19日
10:00-11:00
【歓迎式典】
大學を代表して歓迎挨拶する浅島誠理事・副学長、山田興一理事、藤田隆史産学連携本部長



2月19日
10:00-11:00
【歓迎式典】
北京大學を代表して挨拶する張彦氏(中央)、韓流主席、鄭清文氏(青年連合会副主席)

2月20日(金)には本学生交流プログラムの今後の発展について会談が持たれました。北京大學の韓流氏(北京大學青年連合会主席)からは、昨年11月と今回の相互訪問を踏まえて、今後さらに成果をあげるための提案がなされ、山田興一理事からは継続的にこの交流を深めるといった基本的な考え方は一致している、大きなビジョンを共有化した上で具体的な方策策定に着手したいとの表明がなされました。

振り返ればあっという間に今回のプログラムの終了となりますが、学生にとっても、大學にとっても意義深い“濃密”な3日間でした。

2月20日13:00-14:00
【大學関係者会談】
(左から)于明明氏(北京大學青年連合会)、鄭清文氏、松本洋一郎教授(総長特任補佐)、張彦氏、山田興一理事、韓流氏、各務茂夫教授(産学連携本部事業化推進部長)

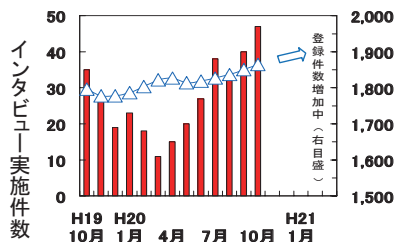


【特集】UCR-プロポーザル さらに充実しました

東京大學教員から学外へ向けての情報発信ページ「UCR-プロポーザル」は、皆様のご協力をいただき、量・質ともに進歩を続けています。

【2008年度の成果(12月までの3四半期分)】

- ①新規プロポーザルを182件追加⇒総プロポーザル件数の着実な増加⇒現在1,870件を超えています。
- ②ページアクセス、企業からの問い合わせ回数の高水準確保⇒1日の平均アクセス件数は約3,000件に!
- ③プロポーザルから発展した共同研究等の成約数⇒今年度すでに27件。



④3月には待望の『英語版』による世界への発信がスタートします!

連絡先: 産学連携本部 (本部産学連携グループ)
電話: 内線22857 (外線03-5841-2857)
ホームページ: <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

【UCR-プロポーザルとは?】(教員の方へ)

「UCR-プロポーザル」は、東大教員から学外へ向けての研究情報、テーマ情報の発信ページです。

☆東大トップページ⇒産学連携本部サイトから直結。日本全国の大企業、中堅企業、地方自治体等、あらゆる分野からアクセス。新たな連携の機会が待っています。

☆単なる研究室紹介ではなく、共同研究等の可能なテーマを提案。連携の強い意欲を持った問合せが来ます。

☆機器の売り込み等はブロックされ、安心です。

①先生はもう掲載済みですか?

⇒まずは、どんなサイトかご覧になってみてください。

<http://proposal.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

⇒掲載ご希望なら、当部からインタビューに伺います。

下記〈お問合わせ先〉までお気軽にご連絡ください。

②すでにご活用中の先生方へ

「UCR-プロポーザル」は毎日更新が可能です。現在、本文に加えて画像、動画が2枚まで掲載できます。

⇒更新のご要望、その他のご相談もお待ちしています。

〈お問合わせ先〉産学連携本部産学連携研究推進部まで

DUCR

検索

DUCR
Division of University Corporate Relations
The University of Tokyo



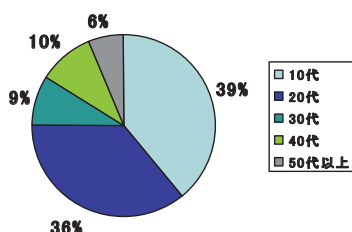
ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信～ No. 16



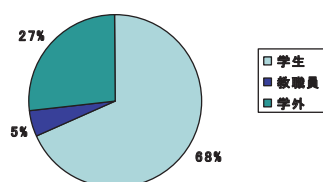
東大ナビの利用者は？

東大ナビでは現在1503名（2009年3月現在）の方々に、隔週で最新のイベント情報をお知らせするメールマガジンを発行しています。登録者は学部生、院生、教員、学外の方々など多種多様です。今月はメールマガジン会員の内訳より、どのような方々に東大ナビをご利用頂いているのか、内訳をグラフでご紹介します！（内訳は2008年9月時点）10、20代の学部生の登録が75%を占めますが、幅広い年齢層の方々、教職員・学外の方々にも多くご愛読頂いており、学内向けに限らず、一般向けのイベント周知にご活用頂くのも効果的かと思えます。

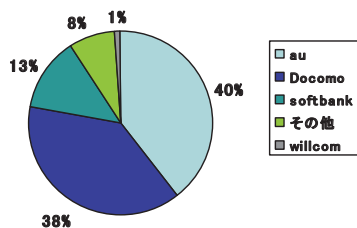
年代構成



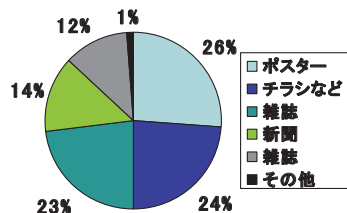
所属別割合



キャリア別割合



東大ナビをどこで知ったか



東大ナビとは？

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。

加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メールマガジンで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。

是非、東大ナビをご活用ください！



イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jpに空メール送信！

- この記事のQRコードから
 - mail@utnav.jp宛てにメール送信
 - 携帯サイトutnav.jpにアクセスしてメルマガ登録ページへ
- ※携帯電話・PCどちらからも登録可能

返信メールから登録画面に入力！

- ご所属
- 性別・年齢など

登録完了！

- 登録確認メールが届きます
- 隔週でメルマガ・お得なクーポンGET!



イベントを宣伝したい方

教育企画室TREEオフィスまで！

- 内線；27823（重田）
- メール；info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
- オフィス；本郷キャンパス 第二本部棟403号室



科学技術振興調整費新興分野人材育成 科学技術インタープリター養成プログラム

科学コミュニケーションはなぜ楽しいか

佐倉 統

大学院情報学環 教授
科学技術インタープリター養成プログラム担当

科学コミュニケーションというと、「科学について分かりやすく伝えること」だと思っている方が多いかもしれない。だがこれでは、事の半分、いや、3分の1すらも言い表せていないように思う。コミュニケーションというのは単なる伝達ではなく、相互理解のことだからである。科学コミュニケーションも例外ではない。科学者にもプラスがあり、科学者も変わって、はじめて科学コミュニケーションが成立したといえる。

以前、一般向け科学雑誌の編集者さんがこんなことを言っていた。「科学者の先生が書いた原稿を『もう少し分かりやすく書いて下さい』と差し戻すと、かえて分かりにくくなって返ってくるんですよ。分かりやすく書くためには、相手のことが分かっているか、相手の知識レベルだけではなく、何を知らがっているのか、どんな背景をもっているのか、どんな歴史を背負っているのか。

だが、科学者にとって、この作業は意外と難しい。それは科学者個人の問題ではなく、科学という営みの根本的な性質によるのだと思う。

すべての知識は、文脈に依存している。「おれキツネ」と、うどん屋さんで中年男性が言うのと、イソップ物語が演しものの学会の前に小学生が言うのとでは、おのずと意味が異なる。前者のキツネはきつねうどんだし、後者はキツネの役である。

だが、科学では、このような文脈に依存しない、普遍的で客観的な知識のあり方を追求する。ニュートンの法則は、うどん屋でも小学校でも、場にかかわらず、どこでも同じように成立する。そして科学者は、そのような知識——文脈によらない普遍的な知識——を獲得することの訓練を受け、できるだけそのような形に知識の表現を近づけるべく、血のにじむような努力を繰り返す。相手によって知識のあり方が異なってしまっても、科学は成立しない(しにくい)のである。

科学コミュニケーションは単なる技法や小手先の話ではなく、「知識とは何か」、「科学とは何か」といった根幹に関わる研究なのである。だから科学コミュニケーションは難しくもあり、やめられない。

★科学技術インタープリター養成プログラム
URL:<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/>

コミュニケーションセンターだより No.57

■今年も「御酒 春限定ボトル」を販売します!!

早いもので、もう卒業・入学のシーズンですね。
今年もコミュニケーションセンターでは【御酒・春限定ボトル】を販売致します!!

本年度も年号と愛らしい桜の模様が入ったボトルになります。
学位記授与式が行われる3月23日(月)より数量限定で販売致しますのでお早めにお立ち寄り下さい。

「御酒・春限定ボトル」



●ミニボトル 300ml
価格：1,995円(税込)



●陶器ボトル 720ml
価格：4,200円(税込)

※なお、写真は昨年度のものです。

■UTCCスタッフおすすめ商品紹介!!



工学部計数工学科
システム情報工学コース4年
木村 慧

写真：シャープペンシル
500円(税込)

(担当：コミュニケーションセンター 山下)

はじめまして。UTCCスタッフの木村です。僕のお勧め商品は【シャープペンシル】です。シャープペンシルと言えば、どこのお店にもありそうですが、だからこそお店の顔にもなるのではないのでしょうか。当店のシャープペンシルは製図用に作られているので細身で握りやすく手に負担がかかりにくく、書き心地は抜群です。僕もこのシャープペンシルを日頃愛用しているのですが、お陰で卒業論文がとてはかどりました!!

UTCCの商品は一つ一つ使いやすさやデザイン等、心がこもっていますので、是非ご来店の際は細部まで見て行って下さい。お待ちしております。



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30
電話：03-5841-1039
<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>

ワタシのオシゴト / 第37回

Rings around the UT

大学院薬学系研究科・薬学部 会計チーム

目黒 哲さん

古い記憶を呼び起こしながら...



薬学部の仲間と(2人ってさみしくね!?)

現在は大学院薬学系研究科・薬学部会計チーム(執行担当)に所属しておりますが、つい先日まで同じ会計チームでも経理担当の仕事をしておりました。経理担当の時は給与関係の仕事をしており年末調整の時期になると心身共に余裕がなくなったりしていました。年末調整もようやく終わったと



ベランダで収穫したブロッコリー

思った矢先に現在の業務に異動し、年度末の伝票処理に動んでいる毎日です。現在行っている業務は、前の部局にて経験したことがあるので古い記憶を呼び起こしながら、日々伝票と格闘中です。(格闘するほどのものでもないです)

薬学部にも4月で在籍2年半になります。今後この部局にいても恥ずかしくないよう、日々精進していきたいと思っています。

得意ワザ：放屁。(よく「えっ!？」って言われます)
 自分の性格：明るく酒好き。おなかを壊しやすいのが難点
 次回執筆者のご指名：おざきくん
 次回執筆者との関係：同期でフットサル仲間
 次回執筆者の紹介：まじめな好青年です



噴水

教育学部附属中等教育学校で第3回三者協議会が行われる

1月31日(土)10時~12時に教育学部附属中等教育学校において、2008年度第3回目の三者協議会が行われた(司会、本校英語科 越智豊教諭)。朝から強い雨が降る中ではあったが、教員、生徒、保護者、合わせて約60名が参加した。

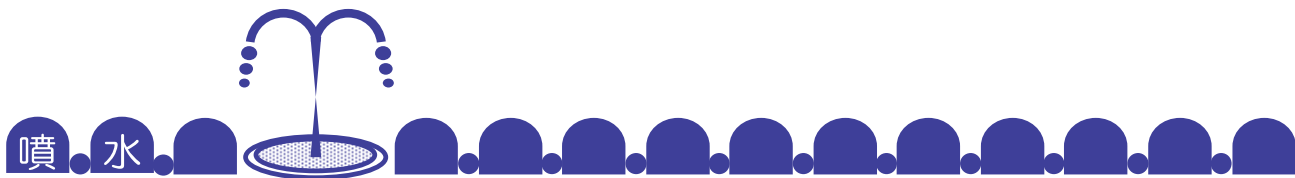
今回の議題は「なぜ勉強ができないの?~さまざまな角度から理由と解決策を探ろう~」。まず、各テーブルにおいて勉強がうまくいかないと感じるときはどんなときかをそれぞれの経験から話した。次に、本校の特色である「学びの共同体」がどんな効果を生んでいるかについて話した。生徒からは、「学びの共同体」での学習において「先生に聞けないようなことも同じグループの人に聞ける」「教室の後ろの席は話を聞き取りづらいときがある」という意見が出た。

次に、「『成績』について、どのように受け止めているか」について、それぞれの立場からの思いを語り合った。生徒が勉強の目的や取り組み方に悩んでいる様子がうかがえた。

後半では、これまでの問題点を踏まえた上で、「勉強がよりうまく進められるようにするには、何が必要か」について、1)学校の授業、2)生徒の学習方法、3)家庭学習の3点から各グループで話し合い、各グループの代表が全体に発表した。「なぜ勉強するのか分からない」「勉強につまずく2、3年生の時期に手助けをしてくれる存在が必要」「学習を自分の好きなことと結びつけるとよい」といった意見が挙げられた。この会を通して、勉強をやらなくてはいけないという意識はあるけれども、何のために勉強をしなければならないのかが分からない生徒がいることや、テレビやケータイから離れられない現代の子どもたちの人間関係における難しさがあることが再確認された。最後にそれぞれが今できることをワークシートに書いた。



三者協議会の様子



教育学部附属中等教育学校で第4回「学びの共同体」研究会行われる

1月30日（金）13時10分から17時まで教育学部附属中等教育学校、新教育棟の多目的室において、2008年度第4回目の「学びの共同体」研究会が行われた。

附属学校では、2005年度から「学びの共同体」づくりをはじめている。

校内の教職員41人と韓国からの参加者（59名）、および名古屋女子大学・木更津総合・彦根西・富士・宝仙学園など校外からの参加者の計約130名で行われた。

授業①（13：10～14：00）は、4年B組（37名）の現代社会で「スタグフレーション」（授業者 橋本涉教諭）であった。アメリカの失業率と物価上昇率の表を読み、グラフにした。グラフの軌跡を読み取り、失業と物価上昇がほぼ同時に起こる現象を理解する。物価上昇の原因を探り、需要曲線と供給曲線の移動によって、スタグフレーションの発生するしくみを考えた。生徒たちは、グループになり、意見交換していた。終わりのチャイムが鳴っても集中して、課題に取り込む姿が印象的であった。

授業②（14：10～15：00）は、1年C組（40名）の英語で、「Lesson 9」（イングランドに住むメアリーからの手紙）（授業者 三浦邦彦教諭）であった。dictation testから始まり、グループで、3人称単数・現在進行形・過去形の用法の文の書き換えを行った。つぎに、pair readingを行い、本文の理解を図った。新出単語の音読練習を行ったあと、異なる情報が書かれたカードをグループ4人で読み合い、筆記した情報を確認し、さらに、情報の内容に関する英語の質問に答える課題を行った。終始、スムーズでテンポの良い授業であった。

指導助言者の大学院教育学研究科の佐藤学教授は「授業①は、4年生の子どもたちが、非常に良く育っている。安定して信頼のもてる授業であり、子どもたちにどんと任せているのが良い。社会科学の授業は、物事の関係が見えて、問題点をみつけ、概念を用いて、論理的に説明できるようになることが大切である」とコメントされた。また、「授業②は、活動量の多い授業であった。英語は、経験量がものをいうので、絶えず、英語を使って活動しているのが良い。英語のおもしろさを内容に加えると、英語を学ぶよさが伝わる。三浦教諭が英語をはじめたきっかけである文化的背景がみえておもしろいことを伝えていくことができる教

材を取り上げるとよい」と指摘された。子どもたちの関係として、「依存」と「自立」があるが、両者を等価値であると認めるところから、「教え合う」のではなく、「学び合う」関係ができてくると述べられた。

検討会終了後、韓国から視察にみえた方々と、懇談会（意見交換）が行われた。授業以外のサポート体制・学びの共同体を行って授業がどう変わったか、韓国の教育事情についてなどの意見交換が同時通訳を交えて行われた。



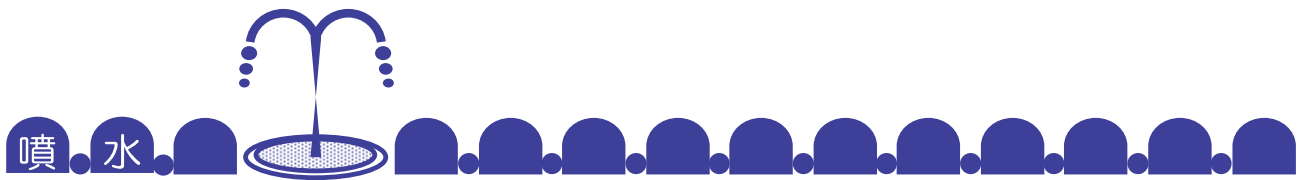
授業①の様子



授業②の様子



懇談会後の集合写真



教育学部附属中等教育学校で、早乙女勝元さんを迎えての特別授業が行われる

2月5日（木）、教育学部附属中等教育学校にて、早乙女勝元さんによる特別授業が行われた。早乙女さんは、1971年ルポルタージュ『東京大空襲』を発表し、日本ジャーナリスト会議奨励賞を、同年、『東京大空襲・戦災史』で菊池寛賞を受賞している。91年には、今井正監督の映画『戦争と青春』（日本アカデミー賞特別賞）の原作と脚本を手がけた。その他、多数の著書が出版されている。

この日の講演題目は「語り継ぐ平和への思い」。参加者は、生徒の他、教員、事務職員、保護者が、この授業に参加した。大きなホールである多目的教室は満員となった。映像を交えながら、授業は約1時間半にわたって行われた。早乙女さんは、ご自身が反戦と平和をライフワークとするまでの経緯を、少年時代のご自身の戦争体験とその後の歩みに沿って話された。「自分だったら、あの人の立場だったらどうするのか」、生徒たちは、早乙女さんが投げかけた問いによって、戦争を追体験するように、平和の問題を考えていた。この時、早乙女さんが伝えた内容は、歴史を認識する、いわゆる歴史学の視点と、人間個人として人生を思索する哲学的な視点を併せ持っていた。「過去から学ぶ、それは何のためか」、「生きることと、学ぶこと」というテーマは、青年期を生きる子どもにとっても、歴史をどのように学んでゆくかを学習する生徒にとっても教養的な内容であった。

最後の生徒との質疑応答では、5年生（高校2年生）が積極的に発言しており、生徒が早乙女さんの人生や考え方に強く興味を持っていたことがわかった。早乙女さんは、この回答の中でも印象的なメッセージを伝えていた。それは、「戦争をどのような立場から見るのか」というもの。早乙女さんは、犠牲になるのはまず社会的弱者であることを述べられ、どのような視点から物事を見るのか生徒に考えさせていた。学ぶ視点、考える視点というものは、一般の授業ではなかなか提供されない。最後に、早乙女さんは「自分の教養を社会のために還元してゆく」ことをこれからも考えていきたいと話されていた。



特別授業の様子

教育学部附属中等教育学校で2008年度音楽祭開催される

2月7日（土）12時30分～16時、本校体育館において、「音楽祭」が開催された。当初1月24日に開催予定であったが、インフルエンザにより3年生に欠席者が多く練習ができない日が続き、当日も多くの欠席者が予想されたため延期された。延期のため、別の予定による欠席の生徒もおり残念であったが、欠席者は少なかった。また、会場が体育館であるため寒さが懸念されたが、天候にも恵まれ多くの保護者が集まる中、合唱祭が開催された。音楽祭は、前期課程評議委員会主催で、前期課程（1年～3年）が、クラス単位で合唱する行事である。開会式のあと「課題曲」、休憩を挟んで「自由曲」がそれぞれ披露された。課題曲は、1年生「時の旅人」、2年生「名づけられた葉」、3年生「聞こえる」であった。審査の結果、今年は3年生の各学級が賞を受賞した。また、各部門賞では2年生、1年生も受賞し来年への期待も感じさせた。閉会式で、三橋俊夫副校長は、「練習時間がなかなか取れず、自由曲まで手が回らなかったクラスもあったのではないかと、これまでの取り組みを評価したあと「自由曲をどう選択するかが大切」と来年に向けての提案を述べた。突然の会場変更により時程や係分担の見直し等にも迅速に対応した前期課程評議委員への感謝の拍手で、音楽祭が閉会した。

以下に部門別の順位を明記する。

課題曲部門

1位 3年A組 2位 2年C組 3位 3年C組

自由曲部門

1位 2年C組「全てが僕の力になる！」

2位 3年B組「青いベンチ」

3位 1年B組「Winding Road」

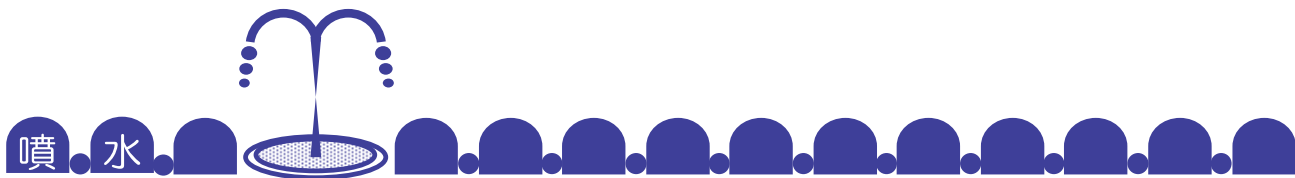
総合

1位 3年A組 2位 2年C組 3位 3年B組

副校長賞 3年A組



総合優勝した3年A組



教育学部附属中等教育学校で第10回公開研究会開催

2月14日（土）に教育学部附属中等教育学校で第10回公開研究会が開催された。午前は2時間の公開授業・総合学習のパネル発表、午後には教科別分科会と全体講演会が行われた。参加者は、全国からの教育関係者や大学生・本校生徒の保護者など500名を超え、教室に入りきれないほどの参観者があった授業もあった。

今回のテーマは、「6年一貫の学びを支える教材・カリキュラム」。公開授業では、ユニークな教材や授業展開、積極的な生徒達の取り組みなどに感心している参観者が多く見られた。午後の教科別分科会では、助言者を招いての授業及びカリキュラムに関する検討会や、参加者が実際に教材研究を体験できるワークショップなどが催され、各教科それぞれに、多様化する生徒達の実情に対応できる教材やカリキュラムについての協議が行われた。

教科別分科会に続いて、教育学研究科市川伸一教授が「新教育課程における学力向上－習得・活用・探求の学習のあり方－」をテーマに全体講演を行った。学力のとらえ方、人間の認知の特性といった基本を押さえた上で、学習における「習得」及び「探求」の2つのサイクルへとつなげてお話をされた。予備知識を身につけさせることにより理解・問題解決・定着を促す「教えて考えさせる授業」に関しては、具体的な実践例を示しながらお話いただき、探求の機会を提供できる国際ホームページコンテストや、英語で作成するウェブマガジンなどの取り組みも紹介された。「教えて考えさせる授業」には理解の確認・自己評価が必須であり、それらにより「習得」の授業でありながら結果的には「探求」の授業となっていくと結ばれた。



市川伸一教授の講演会の様子

教育学部附属中等教育学校で芦寿一郎准教授の特別授業が行われる

2月20日（金）15時40分～17時まで、教育学部附属中等教育学校大教室において、大学院新領域創成科学研究科准教授（兼務海洋研究所准教授）の芦寿一郎先生の特別授業「海底から地震の巣を探る」が行われた。生徒・保護者・教職員、約70名が熱心に聴講した。

はじめに、地震の発生する場所や地震のメカニズムが説明された。1923年の関東大震災の影響で房総半島の野島崎の地形が変化したという。スクリーンには、当時の専門家によるスケッチが紹介され、震災の前後の変化がよくわかった。

芦先生は、「隆起した面に記録された化石を研究することで、いつどのくらい隆起したかがわかり、地震がいつ起きたかのかがわかる」と調査の方法を教示した。さらに、海底にも「海の川」が流れており、それは、泥と砂の混じった「乱泥流」であることを説明された。長いもので、インダス・ベンガルの約1000 kmで、日本の富山湾からは、約700 kmの「海の川」が存在するそうである。

地球深部探査船「ちきゅう」に乗船して、熊野沖地震発生帯を2007年から2008年にかけて調査した際の話には、生徒は特に興味をもって聴いていた。

今後は、海底6kmまで掘削して地質試料の採取を行う計画だそうだ。また、海洋研究所は、来年（2010年）3月には、千葉県柏キャンパスに移るので、今年の7月18日の「海の日」に開催される中野キャンパスでの「海洋研究所一般公開」に是非参加してほしいと述べていた。



芦寿一郎准教授の講義の様子

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

大学院総合文化研究科・教養学部

平成21年度 進学情報センター主催シンポジウム「私はどのようにして専門分野を決めたか」

開催日時：4月27日(月)、28日(火) 18:00～20:00
会場：教養学部7号館761教室(4階)

各学部の先生を講師にお招きし、先生方がどのようにして現在の専門分野を決められたか、また、その選択にどんな夢を託されたかなど、自由にお話していただきます。新学期を迎え、「専門分野の決定」について最も関心が高い時期であろうと判断し、シンポジウムを企画しました。皆さんにとって、大学で学ぶことの意味を問い直し、広い視野に立って進学を考える契機となることを期待しています。開始時間は18時から、2日間に分けて行います。

先生方への質問の時間も予定しています。ぜひ参加してください。

講師の先生方の所属、氏名、専門分野、演題は以下のとおりです。

4月27日(月)

法学部 加毛 明 准教授 (民法)

「日本で法学を学ぶことの難しさと面白さ」

医学部 真田 弘美 教授 (老年看護学/創傷看護学)

「年をとるのも悪くないと思える社会を」

工学部 染谷 隆夫 准教授 (物理工学)

「プリンタで回路を作る」

文学部 野崎 敏 准教授 (フランス文学)

「文学は学べるのか」

理学部 岡村 定矩 教授 (天文学)

「馬頭星雲と玄界灘の夕日」

4月28日(火)

農学部 大久保 範聡 准教授 (水圏生物科学)

「サカナのことをもっと知りたい」

経済学部 大橋 弘 准教授 (企業経済学)

「経済学は実学か」

教養学部 小宮山 進 教授 (固体物性)

「三つ子の魂百まで」

教育学部 勝野 正章 准教授 (教育行政学/学校経営学)

「学校と教師への信頼」

薬学部 松木 則夫 教授 (神経薬理学)

「薬の作用に魅せられて」

*シンポジウム終了後、進学振分けの説明会と先生方と交えた懇親会を行います。

問合せ先 教養学部進学情報センター

斎藤 文修 准教授 (内線 46187)

シンポジウム・講演会

生命科学教育支援ネットワーク

公開シンポジウム 第6回「東京大学の生命科学」シンポジウム開催のお知らせ

本学では10を超える学部・研究科・研究所において、多様な生命科学の研究と教育が進められています。このシンポジウムでは、地球上の生命の多彩な広がりやその不思議から、病気の予防、診断、治療法に関する新しい方法の開発に至るまで、本学の様々な領域の研究者が最先端の話題を解りやすく紹介します。また、受付ロビーには、学部や大学院の進路決定の参考になるように、生命科学ネットワークに参加する各研究科・研究所の紹介ブースを設置します。多くの学生、大学院生、研究者の参加を期待します。

日時：5月2日(土) 10:00～17:20

場所：安田講堂

主催：東京大学 生命科学ネットワーク (新組織)

参加費：無料

URL：<http://www.lse.u-tokyo.ac.jp/biout2009>

プログラム：

10:00～10:05 開会の挨拶 (東京大学総長)

<座長：児玉 龍彦/先端科学技術研究センター>

10:05～10:25 「ゲノム多様性と疾患遺伝子」

徳永 勝士 (医学系研究科)

10:30~10:50 「異物解毒に関わる薬物トランスポーター：医薬品開発における重要性」
 杉山 雄一（薬学系研究科）
 10:55~11:15 「マルチテンプレート法による生物活性物質の創製」
 橋本 祐一（分子細胞生物学研究所）
 11:20~11:40 「特殊ペプチド創薬」
 菅 裕明（先端科学技術研究センター）
 11:45~12:05 「骨軟骨の生物学と再生医学」
 鄭 雄一（工学系研究科）
 12:05~13:30 休憩

<座長：酒井 康行／生産技術研究所>

13:30~13:50 「味覚のしくみの分子論」
 阿部 啓子（農学生命科学研究科）
 13:55~14:15 「マグネシウム輸送体による細胞内マグネシウムホメオスタシス機構」
 瀧木 理（医科学研究所）
 14:20~14:40 「緑色光と光合成：葉は緑の光をいかに使うか」
 寺島 一郎（理学系研究科）
 14:45~15:05 「光合成の秘密に迫る」
 渡辺 正（生産技術研究所）
 15:05~15:35 休憩

<座長：大矢 禎一／新領域創成科学研究科>

15:35~15:55 「ヒトはどのように特別なチンパンジーか」
 長谷川寿一（総合文化研究科）
 16:00~16:20 「海洋動物の比較行動学(スケーリング)」
 佐藤 克文（海洋研究所）
 16:25~16:45 「知性を生み出す脳の形と脳の動き」
 山口 陽子（情報理工学系研究科）
 16:50~17:10 「ヒト常在菌のゲノム科学：ヒト生物学の新たなフロンティア」
 服部 正平（新領域創成科学研究科）
 17:15~17:20 閉会の挨拶

懇親会：17:40～ 山上会館 談話ホール
 学生 1000 円、有職者 3000 円
 (当日、懇親会会場の入口にて受付をします)

問い合わせ先：〒 113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
 東京大学大学院農学生命科学研究科
 「東京大学の生命科学」シンポジウム当番世話人
 正木春彦
 内線：23080
 メール：biout@lse.u-tokyo.ac.jp



第6回 東京大学の生命科学シンポジウムポスター



お知らせ

退職教員の最終講義

学内広報では、今年度末をもって本学を退職される方々の最終講義のお知らせを掲載します。

大学院新領域創成科学研究科

松井 孝典 教授

(複雑理工学専攻)

日時：3月3日(火) 16:00～

会場：理学部一号館2階 小柴ホール

演題：「比較惑星学、アストロバイオロジーそして地球物理学」

和田 仁 教授

(物質系専攻)

日時：3月17日(火) 16:00～17:00

会場：柏キャンパス 新領域基盤棟2階大講義室

演題：「A Road toward SuperMRI」

大澤 雅彦 教授

(自然環境学専攻)

日時：3月24日(火) 14:00～15:30

会場：柏キャンパス 新領域環境棟 F Sホール

演題：「湿潤アジアの森林帯研究 25年」

お知らせ

保健センター

新入生健診実施に伴う業務時間等の変更について

保健センターでは例年4月上旬から中旬にかけて駒場キャンパスにおいて新入生健康診断を行っています。

今年も、本センター（本郷、駒場、柏の各支所）全体で新入生の健康診断業務に対応することとなりますので各支所とも4月2日（木）、6日（月）、7日（火）を全面休診とさせていただきます。

なお、上記3日間のほかにも4月中旬ごろまで健康診断関連業務のため、やむを得ず休診や診療（または業務）時間に変更等が生じる場合がありますので予めご了承ください。

恐れ入りますが、本センター各支所・各科（室）等へお越しになる前に必ず下記ホームページや電話等で状況をご確認のうえ、来所くださるようお願いいたします。学生、教職員の皆様には大変ご不便をおかけしますが、何卒ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【問合せ先】

保健センター本郷支所：

<http://www.hc.u-tokyo.ac.jp/hhomeflame.htm>

電話 03-5841-2574・2575 内線 22574・22575

保健センター駒場支所：

<http://hokencenterkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/indexk.htm>

電話 03-5454-6080 内線 46080

保健センター柏支所：

<http://www.kashiwa.uthsc.net/jp/>

電話 04-7136-3040 内線 63040

お知らせ

情報基盤センター

“総合図書館オリエンテーション”実施のお知らせ

本郷キャンパスにある「総合図書館」を知っていますか？活用していますか？

4月に下記の日程で“総合図書館オリエンテーション”を、総合図書館と情報基盤センター図書館電子化部門の共催で実施します。

春から初めて総合図書館を利用される方はもちろん、これまで利用したことのある方も、この機会にオリエンテーションに参加して、ぜひ総合図書館を使いこなしてください。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

※英語コースもあります。留学生のみなさんのご参加も、お待ちしております。

●集合場所：

本郷キャンパス総合図書館1階 総合案内カウンター
（予約不要）

●内容：各コマ30分（1コマだけでも参加OK）

- ・「利用案内」：総合図書館の利用案内
- ・「書庫案内」：総合図書館書庫の案内、利用法
- ・「OPAC入門」：東京大学OPACの使い方（蔵書検索）
- ・「国際資料室案内」：国際資料室の案内とインターネットによる検索

●参加費：無料

●日程：

■ 4/8（水）

13:00～13:30 利用案内

13:30～14:00 書庫案内

14:00～14:30 OPAC入門

■ 4/10（金）

13:00～13:30 利用案内

13:30～14:00 書庫案内

14:00～14:30 OPAC入門

■ 4/13（月）

13:00～13:30 利用案内

13:30～14:00 書庫案内

14:00～14:30 OPAC入門

15:00～15:30 利用案内【英語コース】

15:30～16:00 書庫案内【英語コース】

16:00～16:30 OPAC入門【英語コース】

■ 4/14（火）

13:00～13:30 利用案内

13:30～14:00 書庫案内

14:00～14:30 OPAC入門

■ 4/15（水）

10:00～10:30 利用案内【英語コース】

10:30～11:00 書庫案内【英語コース】

11:00～11:30 OPAC入門【英語コース】

15:00～15:30 利用案内

15:30～16:00 書庫案内

16:00～16:30 OPAC入門

■ 4/16（木）

13:00～13:30 利用案内

13:30～14:00 書庫案内

14:00～14:30 OPAC入門

■ 4/17（金）

15:00～15:30 利用案内

15:30～16:00 書庫案内

16:00～16:30 OPAC入門

■ 4/20（月）

15:30～16:00 国際資料室案内

■ 4/21（火）

15:30～16:00 国際資料室案内

■ 4/22 (水)

15:30 ~ 16:00 国際資料室案内

●問い合わせ：

総合図書館 参考調査係

03-5841-2647 (内線：22647)

sanko@lib.u-tokyo.ac.jp

http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/

情報基盤センター 学術情報リテラシー係

03-5841-2649 (内線：22649)

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html

お知らせ

アイソトープ総合センター

平成 21 年度新規放射線取扱者全学一括講習会
開催と放射線取扱者再教育用資料の配付

東京大学においてアイソトープや放射線発生装置 (X線発生装置「百万電子ボルト未満」等を含む)、電子顕微鏡 (加速電圧 100kV 以上) 等を使用する人 (放射線取扱者) は、全員、所属部局で登録し、放射線安全取扱・法令等の教育・訓練を受講し、放射線取扱者健康診断を受診することが必要です。とくに、新たに放射線取扱者になろうとする人は、予め所属部局に登録申請し、全学一括で開催される新規放射線取扱者講習会を受講することが義務づけられています。全学一括の新規放射線取扱者講習会には、研究等に放射線を利用する人を対象とする「RIコース」・「RIXコース」・「X線コース」と、放射線診療従事者を対象とする「診療放射線コース」・「核医学コース」があります。放射線取扱の内容により受講が必要なコースが異なります。平成 21 年度の新規放射線取扱者全学一括講習会の開催予定は以下のとおりです。

平成 21 年度新規放射線取扱者講習会開催日程

◎ RI コース (RIX コース)

開催回	区分	1日目講義・2日目実習	募集人数
第 148 回 (第 4 回)	(A)	4月20日(月)・21日(火)	50 名
	(B)	4月20日(月)・22日(水)	50 名
第 149 回 (第 5 回)	(A)	5月14日(木)・18日(月)	30 名
	(B)	5月14日(木)・19日(火)	30 名
	(A)	5月15日(金)・18日(月)	30 名
	(B)	5月15日(金)・19日(火)	30 名

第 150 回 (第 6 回)	(A)	6月6日(土)・9日(火)	30 名
	(B)	6月6日(土)・10日(水)	30 名
	(C)	6月6日(土)・11日(木) "	10 名
第 151 回 (第 7 回)	(A)	6月8日(月)・9日(火)	30 名
	(B)	6月8日(月)・10日(水)	30 名
	(C)	6月8日(月)・11日(木) "	10 名
第 152 回 (第 8 回)	(A)	6月26日(金)・29日(月)	50 名
	(C)	6月26日(金)・30日(火) "	20 名
第 153 回 (第 9 回)	(A)	7月16日(木)・17日(金)	50 名
第 154 回 (第 10 回)	(A)	9月15日(火)・16日(水)	50 名
第 155 回 (第 11 回)	(A)	10月19日(月)・20日(火)	50 名
第 156 回 (第 12 回)	(A)	11月26日(木)・27日(金)	50 名
第 157 回 (第 13 回)	(A)	1月19日(火)・20日(水)	50 名
第 158 回 (第 14 回)	(A)	2月22日(月)・23日(火)	50 名
	(A)	3月18日(木)・19日(金)	50 名

* 5月14日は柏キャンパスで講義が実施される日

** 6月11日と6月30日はライフサイエンス系実習を行います。内容は「P-32で標識したATPを酵素で加水分解し、その加水分解物をTLCで展開後、イメージングプレートを用いてシグナル検出する実習」です。

◎ 英語 RI (RIX) コース

開催回	区分	1日目講義・2日目実習	募集人数
第 20 回 (第 1 回)	(A)	4月20日(月)・21日(火)	10 名
	(B)	4月20日(月)・22日(水)	10 名
第 21 回 (第 2 回)	(A)	5月15日(金)・18日(月)	10 名
	(B)	5月15日(金)・19日(火)	10 名
第 22 回 (第 3 回)	(A)	6月26日(金)・29日(月)	10 名
	(C)	6月26日(金)・30日(火) "	10 名
第 23 回 (第 4 回)	(A)	7月16日(木)・17日(金)	10 名
第 24 回 (第 5 回)	(A)	9月15日(火)・16日(水)	10 名
第 25 回 (第 6 回)	(A)	10月19日(月)・20日(火)	10 名
第 26 回 (第 7 回)	(A)	11月26日(木)・27日(金)	10 名
第 27 回 (第 8 回)	(A)	1月19日(火)・20日(水)	10 名
第 28 回 (第 9 回)	(A)	2月22日(月)・23日(火)	10 名
第 29 回 (第 10 回)	(A)	3月18日(木)・19日(金)	10 名

** 6月30日はライフサイエンス系実習を行います。

◎ X線コース日程

開催回	講義日	募集人数
第117回	4月13日(月)	100名
第118回	5月1日(金)	100名
第119回	5月14日(木)	100名
第120回	5月15日(金)	20名
第121回	5月26日(火)	100名
第122回	6月6日(土)	60名
第123回	6月24日(水)	100名
第124回	7月16日(木)	60名
第125回	9月15日(火)	60名
第126回	10月19日(月)	60名
第127回	11月26日(木)	60名
第128回	1月19日(火)	60名
第129回	2月22日(月)	60名
第130回	3月18日(木)	60名

*5月14日は柏キャンパスで講義が実施されます。

◎ 英語X線コース日程

開催回	講義日	募集人数
第17回	4月13日(月)	20名
第18回	5月1日(金)	20名
第19回	5月15日(金)	10名
第20回	5月26日(火)	20名
第21回	6月24日(水)	20名
第22回	7月16日(木)	10名
第23回	9月15日(火)	10名
第24回	10月19日(月)	10名
第25回	11月26日(木)	10名
第26回	1月19日(火)	10名
第27回	2月22日(月)	10名
第28回	3月18日(木)	10名

(以上の各コースは、5月14日(木)に柏で実施される講義以外は、アイソトープ総合センターの教育訓練棟で実施します。)

4月に開催される各コースの受講希望者は、できるだけ早く所属部局の事務室または放射線管理室へお申し込みください。(締め切り日は部局により異なりますので確認してください。)なお、講習会に参加するには、まず部局での放射線取扱者登録申請・講習会申込書の提出が必要です。アイソトープ総合センターで直接申込みを受け付けることはできません。放射線取扱者登録申請手続きの手順及び放射線取扱者講習会の開催日程と募集については、アイソトープ総合センターのホームページ(<http://www.ric.u-tokyo.ac.jp>)でも案内しています。また、RIコース(RIXコース)に参加する方は前もって放射線取扱者取扱前健康診断の受診が必要です。保健センターのホームページ(<http://www.hc.u-tokyo.ac.jp>)で、健康診断の日程が確認できます。

一方、以前より放射線取扱者である人は、毎年、それぞれの部局で再教育を受けることが法令により定められています。実施内容や方法については、それぞれ所属の

研究室や部局の担当者に確認してください。

アイソトープ総合センターでは、東京大学における放射線取扱者(約6,000名)の再教育における参考資料として、毎年、年度始めに8~12ページの小冊子「放射線取扱者再教育用資料」を登録されている取扱者全員に配布しております。平成21年度に配付する「再教育用資料 No.27(2009)」の内容は、「インターベンショナルラジオロジーにおける被ばくと防護」、「放射線事故について」、「放射線管理測定で使用する線量(Sv:シーベルト)について」です。資料が配付されましたら目を通して頂き、今後の研究および放射線管理の参考にしてください。

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

第5回東京大学教養学部選抜学生コンサート

4月22日(水)18時(開場17時30分)

18:00 pm, April 22, 2009

駒場コミュニケーション・プラザ 音楽実習室

Classroom for Music, Komaba Communication Plaza

R. シューマン Robert Schumann

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第2番ニ短調第1楽章 Sonate fr Violine und Pianoforte Nr. 2 d-Moll, op. 121

ヴァイオリン: 森本和浩(工学部理工工学科)

ピアノ: 松原薫(文学部思想文化学科美学藝術学専修課程)

F. F. ショパン Fryderyk Franciszek Chopin

スケルツォ第2番 変ロ短調 Scherzo Nr. 2 b-Moll, Op. 31

ピアノ独奏: 塚本有香(教養学部理科二類)

A. N. スクリャービン Александр

Николаевич Скрябин

幻想曲 ロ短調 Fantaisie h-Moll, Op. 28

ピアノ独奏: 世古隆蔵(経済学部)

休憩(10分) Intermission

L. v. ベートーヴェン Ludwig van Beethoven

ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 Klaviersonate Nr. 31 As-Dur, Op. 110

ピアノ独奏: 河野真士(大学院数理科学研究科博士課程)

K. M. シマノフスキ Karol Maciej Szymanowski

神話「アレトウーザの泉」 Mythes, La fontaine d'Arethuse, Op. 30-1

G. ガーシュウィン / J. ハイフェッツ編曲 George Gershwin / Arr. by Jascha Heifetz
そんなことはどうでもいいさ It ain't necessarily so
M. M. ポンセ / J. ハイフェッツ編曲 Manuel Maria Ponce / Arr. by Jascha Heifetz
エストレリータ Estrellita
ヴァイオリン：サラ・リム（教養学部 AIKOM 留学生）
ピアノ：和田萌子（東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程）

入場無料（先着 100 名）

主催：東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 ピアノ委員会

問い合わせ：03-5454-6139

（東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館）

東京大学教養学部選抜学生コンサートは、オーディションにより選抜された本学の学生を演奏者とするコンサートで、毎年 4 月と 11 月に開催する予定です。

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

第 15 回理学部公開講演会「科学の最高峰」

昨年 4 人の日本人研究者がノーベル賞に輝きました。日本人による基礎研究が国際的に高く評価されたことは喜ばしいことです。本講演会では、物理学賞の対象となった「対称性とその破れ」と化学賞の「緑色蛍光たんぱく質」、さらに数学分野で最高の荣誉であるフィールズ賞が贈られた「ポアンカレ予想」をテーマに、各分野で活躍する研究者がその概要と最先端の研究についてわかりやすく解説します。

日時： 4 月 26 日（日）14:00～16:30（13:00 開場）
* 終了後、講演者との歓談の時間を設けます。

会場： 本郷キャンパス 安田講堂

入場： 無料 事前申し込み不要
どなたでもご参加いただけます。

定員： 700 名（当日先着順）

講演内容：

「宇宙誕生はじめの 1 秒間の謎 ～対称性とその破れ～」
濱口 幸一（理学系研究科 物理学専攻 准教授）

「クラゲの光るタンパク質が生命の謎を解く」
中野 明彦（理学系研究科 生物科学専攻 教授）

「ポアンカレ予想」
松本 幸夫（数理学研究科・名誉教授
現学習院大学理学部 数学科 教授）

中継：インターネット配信を予定
主催・問い合わせ先：大学院理学系研究科・理学部
TEL: 03-5841-7585
E-mail: kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp
URL <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/PL15>

お知らせ

情報基盤センター

授業の 1 コマやゼミ等にご活用ください！
～文献検索の「出張講習会」ご依頼受付中～

情報基盤センター図書館電子化部門学術情報リテラシー係では、文献検索に関する「出張講習会」のご依頼を、年間を通して、随時承っております（無料）。

授業の 1 コマやゼミ等に、どうぞご活用ください。

●ご希望の内容・レベルで！

ご希望を伺って、講習内容・配付資料をご用意します。

【講習内容の例】

- ・文献の入手方法（電子ジャーナル、図書館の蔵書検索）
- ・あるテーマについての論文の探し方（日本語論文、英語論文）
- ・ご希望の文献データベースの使い方
- ・Web 版の文献管理ツールの使い方
- ・自宅からの利用方法 など

●ご希望の日時で！

日時・会場など、ご相談に応じます。会場は、総合図書館 1 階講習会コーナー（端末 12 台）を使うこともできます。大教室でのスクリーン上映で実施した例もあります。

なお、当係が実施する他の講習会との関係で、お引き受けできない日時がありますのでご了承ください。既に決まっている講習会の日時は下記のサイトで公開します。

⇒ <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

●お申込みは 2 週間前までに

ご相談・お申込みは、年間を通して随時承っております（無料）。下記の項目についてお知らせください。

【ご連絡いただく事項】

- ・希望日時（可能なら第三希望まで）
- ・講習会場
- ・講習内容
- ・参加予定人数
- ・連絡先（メールアドレス、電話番号）

希望日の 2 週間前までに、下記問い合わせ先までご連絡ください。

●学部生・院生を問わず、ご好評頂いています

「出張講習会」は平成11年度から実施しています。平成20年度は、教養学部、文学部、工学部、理学部、学際情報学府ほかの授業等で実施し、「論文の探し方がわかって良かった」「卒論のための検索で悩んでいたのが助かった」「これからの勉強に活用できそうで良かった」など、学部生・院生を問わず、ご好評いただいております。過去の実施例は下記のサイトをご参照ください。

●問い合わせ：

情報基盤センター 学術情報リテラシー係
03-5841-2649（内線：22649）
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>

＝ 特集テーマ & 執筆部署募集告知＝ 特集の記事を執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

1. 制作方法

① テーマの選定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することになっています。まずは、本部広報グループに気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。
(締切日の1カ月前位までに一度ご相談ください)

② 内容・構成の決定

執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。見開き2ページを1単位とします。内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。

③ 原稿の執筆

決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はwordファイルでご制作下さい。

④ ビジュアル要素の提供

特集に盛り込む写真・図・イラストを執筆部署から提供していただきます。手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがいます。
(学外または他部署のホームページ等から写真・図・イラスト等を転用する場合は著作権に十分留意し、必ず先方の許諾を得てからご使用ください)

⑤ デザイン

お書きいただいた原稿、ご提供いただいた写真・図等を素材に、Power Point等でページデザインを制作していただきます。編集スタッフにデザイン制作のご相談をしていただければ対応いたします。

⑥ 校正

文字校正を行なっていただきます。

⑦ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布します。

2. 締切日

こちらから期日をお伝えしますので、ご協力をお願いします。通常の学内広報の切日の**数日前**を原稿締切日とします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム TEL：03-3811-3393 内線22031 E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

訃報

柴田寿子教授

2月4日、東京大学総合文化研究科の柴田寿子教授がご病気のため亡くなりました。享年53歳でした。



柴田先生は、1980年3月一橋大学経済学部をご卒業後、同大学院社会学研究科に進学され、同博士課程を修了後、一橋大学社会学部助手を務められた後、1993年4月に、東京大学教養学部社会科学科に助教授として、赴任されました。その後、先生は、1996年4月から、東京大学の大学院重点化に伴い、大学院総合文化研究科国際社会科学専攻の助教授に異動となり、2002年4月に同教授に昇任されました。

その間、学部では、主に社会思想史と基礎演習を、大学院では公共哲学の科目を担当され、その懇切丁寧な指導で、学生に大変慕われておりました。また、教育行政においては、社会・社会思想史部会主任をはじめ、教務委員、入試委員、広報委員、ハラスメント

委員、学生委員などを務められ、その誠実なお人柄で、駒場の同僚からも慕われておりました。

先生の主なご専門は、特に近代ヨーロッパの政治思想史であり、2001年に東京大学学術博士号取得のために提出された『スピノザの政治思想——デモクラシーのもうひとつの可能性』は、これまでなかった独創的なスピノザ研究として、学界の注目を集めました。この書物は、スピノザの著作そのものを丹念に読解することを通して、今まで学界が抱えてきた通俗的なスピノザ理解を批判するのみならず、ホップズにもルソーにもないスピノザの政治思想の現代的意義を人々に知らしめた画期的な書物であったように思います。そして、最近では、ハナ・アーレント、レオ・シュトラウスらの研究を基に、「政治思想と宗教思想」の関係を体系的に論考するお仕事をなさっておられました。

このように、柴田先生は本学の教育・教育行政・研究に大きな貢献をされましたが、今後ますます柴田先生のご活躍を期待していただけに、突然の訃報に、痛惜の思いで一杯です。心からご冥福をお祈りいたします。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

事務連絡

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

氏名	異動内容	旧（現）職等
	(退職)	
21.3.1 河野 正規	辞職	大学院工学系研究科准教授
	(採用)	
21.3.1 隈 研吾	大学院工学系研究科教授	
	(昇任)	
21.3.1 安田 直樹	数物連携宇宙研究機構教授	宇宙線研究所准教授
	(業務命)	
21.2.16 山影 進	大学院総合文化研究科長 教養学部長	大学院総合文化研究科教授

※ 退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

平成21年度 学内広報発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日	配布
1385	4月 1日(水)	4月 23日(木)	4月 30日(木)
1386	4月 28日(火)	5月 25日(月)	5月 29日(金)
1387	5月 28日(木)	6月 19日(金)	6月 25日(木)
1388	7月 1日(水)	7月 27日(月)	7月 31日(金)
1389	7月 28日(火)	8月 25日(火)	8月 31日(月)
1390	8月 28日(金)	9月 17日(木)	9月 28日(月)
1391	10月 1日(木)	10月 23日(金)	10月 29日(木)
1392	10月 29日(木)	11月 20日(金)	11月 27日(金)
1393	学生生活実態調査号		
1394	11月 25日(水)	12月 17日(木)	12月 24日(木)
1395	1月 6日(水)	1月 25日(月)	1月 29日(金)
1396	1月 29日(金)	2月 19日(金)	2月 25日(木)
1397	セクシュアル・ハラスメント調査特集号		
1398	2月 25日(木)	3月 19日(金)	3月 26日(金)

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html

【東京大学ホームページ】→【右下の学内広報アイコンをクリック】

問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム

TEL: 03-3811-3393 内線22031 E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp





「学内広報」ニュース・インフォメーション記事提出要領

作成例

本部広報グループ

「キャンパスツアー」スタート！

本学学生がツアーガイドとなって、赤門や大講堂(安田講堂)、三四郎池、総合図書館など、本郷キャンパス内の名所旧跡を案内する「キャンパスツアー」が今年も始まった。キャンパスツアーは昨年度から実施されており、「ジュニアTA制度」に基づき応募した学生が、東京大学の歴史や学生生活のエピソードを交えながら、約2時間にわたり案内する。

今年度のスタートとなった5月14日(土)には、午前、午後合わせて43人が参加し、ツアーガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。



広報センター前で説明するガイドとそれを聞く参加者

ツアーには、高校生以上であれば誰でも無料で参加することができる。今後のツアーは、夏休みや年末年始、入試、学期末試験期間を除く授業期間の火曜日(10:00~12:00)と土曜日(10:00~12:00、13:30~15:30)に行われる予定である。



正門から大講堂に続く銀杏並木

記事の冒頭に**部局名**を記載

簡潔で分かりやすい**タイトル**を記載

- ・過去の報告記事(ニュース)では「**である調**」を用いる
- ・今後のお知らせ(インフォメーション)では「**ですます調**」を用いる

日付には括弧書きで**曜日**をつける

- ・写真を掲載する場合は、25文字以内で**キャプション**(写真の説明文)をつける
- ・原稿とは別に、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを別途送付する(プリントの写真は学内便で送付)

句読点は「、」「。」を用いる

時間は**24時間表記**とする

- ・記事は一行25文字の書式で作成する。
- ・文字数は800字を目安とするが、内容によって増減は可とする。
- ・人物名は**フルネーム**で表記すること。

提出上の注意

1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとして送付すること。
(学内広報担当者の個人アドレスではなく、必ず下記のアドレスに送付してください。)

2. 締切日

発行スケジュールは前頁に掲載しています。

4月以降はHPで確認すること。

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html
トップページ> 広報・情報公開> 学内広報

問い合わせ先・提出先

本部広報グループ広報企画チーム

TEL: 03-3811-3393(内線 22031)

E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

※原稿を受け取った後、学内広報担当者から、必ず**受領メール**をお送りしています(概ね1週間以内)。返信メールが届かない場合は、何らかのトラブルで原稿を受け取れていない可能性がありますので、**その際はお問合せ願います。**

Contents

特集

- 02 本郷地区、自転車・バイク利用の改善施設の実施へ

NEWS

一般ニュース

- 08 本部総務グループ
平成21年度 学科・専攻の設置について
- 08 海洋アライアンス
海の魅力を伝える「出前授業」がスタート!
- 09 地球観測データ統融合連携研究機構 (EDITORIA)
第4回アジア水循環イニシアティブ (AWCI) 会合
(京都) 開催
- 10 本部業務改善グループ
平成20年度業務改善WG成果報告会開催
- 10 本部留学生支援グループ
「東京大学外国人留学生スキー講習会・小谷(おたり)
中学校との交流会」開催される
- 11 本部国際企画グループ
「クリントン米国国務長官タウンミーティング」開催される
- 12 本部国際連携グループ
平成21年度東京大学国際学術交流助成事業の採択
決まる
- 14 本部入試グループ
平成21年度外国学校卒業学生特別選考の受験者数
決まる
- 15 本部入試グループ
第2次学力試験(前期日程・後期日程)の出願受付
終わる
- 16 本部入試グループ
平成21年度第2次学力試験(前期日程)の受験者
数決まる

部局ニュース

- 17 大学院総合文化研究科・教養学部
部局長の交代
- 18 退職教員の紹介
- 35 大学院教育学研究科・教育学部
冬の留学生懇談会を開催
- 35 社会科学研究所
社会科学研究所のワーク・ライフ・バランス推進研
究プロジェクトがキックオフセミナーを開催
- 36 東洋文化研究所
第4回アジア古籍保全講演会を開催
- 36 生産技術研究所
窪 謙佑さん(大学院工学系研究科応用科学専攻
修士1年)、「第6回東京大学学生発明コンテスト・発
明大賞」受賞
- 37 医学部附属病院
大学病院医療情報ネットワーク設立20周年行事開催
- 38 大学院総合文化研究科・教養学部
三鷹国際学生宿舎生、三鷹市民駅伝大会で快走!
- 39 海洋研究所
第1回「東南アジア域における海洋科学研究に関
する将来構想ワークショップ」開催される
- 40 大学院理学系研究科・理学部
大学院理学系研究科・理学部教職員と留学生・外国
人研究者との懇親会
- 40 大学院総合文化研究科・教養学部
「理想の教育棟新営工事安全祈願祭」挙行される

◆ 表紙写真 ◆

ヒラリー・クリントン米国国務長官、来学
(11ページに関連記事)

- 40 医学部附属病院
「附属病院 外来棟・中央診療棟での防災訓練」が
実施される

コラム

- 42 Crossroad～産学連携本部だより～ vol.40
- 43 ケータイからみた東大～東大ナビ通信～ No.16
- 44 インタープリターズ・バイブル vol.20
- 44 コミュニケーションセンターだより No.57
- 45 Relay Column「ワタシのオンゴト」第37回
- 45 噴水 教育学部附属中等教育学校で第3回三者協議
会が行われる
- 46 噴水 教育学部附属中等教育学校で第4回「学びの
共同体」研究会行われる
- 47 噴水 教育学部附属中等教育学校で、早乙女勝元さ
んを迎えての特別授業が行われる
- 47 噴水 教育学部附属中等教育学校で2008年度音楽
祭開催される
- 48 噴水 教育学部附属中等教育学校で第10回公開研
究会開催
- 48 噴水 教育学部附属中等教育学校で芦寿一郎准教授
の特別授業が行われる

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 49 大学院総合文化研究科・教養学部
平成21年度 進学情報センター主催シンポジウム
「私はどのようにして専門分野を決めたか」
- 49 生命科学教育支援ネットワーク
公開シンポジウム 第6回「東京大学の生命科学」
シンポジウム開催のお知らせ

お知らせ

- 50 退職教員の最終講義
- 51 保健センター
新入生健診実施に伴う業務時間等の変更について
- 51 情報基盤センター
“総合図書館オリエンテーション”実施のお知らせ
- 52 アイソトープ総合センター
平成21年度新規放射線取扱者全学一括講習会開催
と放射線取扱者再教育用資料の配付
- 53 大学院総合文化研究科・教養学部
第5回東京大学教養学部選抜学生コンサート
- 54 大学院理学系研究科・理学部
第15回理学部公開講演会「科学の最高峰」
- 54 情報基盤センター
授業の1コマやゼミ等にご活用ください!
～文献検索の「出張講習会」ご依頼受付中～

訃報

- 56 柴田寿子教授

事務連絡

- 56 人事異動(教員)

淡青評論

- 60 イノベーションネットワーク



七徳堂鬼瓦

イノベーションネットワーク

「アクション・プランは何%達成できたか？」記者にそう質問され、「200%」と答えた。アクション・プランの成功が、東大の強い個人の力によるものであることは言うまでもなかろう。実際、ハーバードやイエールの学生グループが来訪しても、クリントン国務長官とのタウンミーティングでも、東大の学生は伸びやかで才気溢れ実に素晴らしい。教員はもともと、その分野でならトップレベルの人たちだ。私は、強い個人が協調できる仕

掛けを作っていたのだ。自律分散系から自律分散協調系へ舵を切ったのである。

プラン達成度の評価にあたって、協調系の導入が自律分散系つまり個人や部局を活性化させた効果を見過ぎてはならない。それが、達成度200%の含意である。

さて、日本を東大になぞらえてみよう。組織への忠誠心に富む知的で勤勉な個人、世界でも屈指の強い企業、奉仕の精神に富んだ役人、皮肉ではない、世界を俯瞰したとき、日本の自律分散系の多くはまだまだ強いことに気づく。今こそ適切な協調系の導入が必要なのである。自律分散系の力が失われてしまわないうちに実行に移せば、経済も世界における存在感も、200%位にはなるだろう。

協調系の鍵はネットワークではないだろうか。

実は、東大改革が成功したもうひとつの理由は同調者の出現にある。次々と打ち出した、いささか無理気味なプランであったが、常に同調者が現れて成功に導いたのであった。日本には今、現状ではまずい、なんとかしたいと考える自律分散系が多数存在する。その人や組織をネットワーク化したい。ランダムネットワーク理論によれば、自発的でオープンなネットワークにはハブが生まれる。私はこれから、そのハブたらんと活動してみるつもりだ。きっと同調者が現れ、日本独特のイノベーションシステムを誕生させることができる、そう期待しているからである。

皆さん、4年間ありがとう。今こそ前に進みましょう。時代をリードするために。

小宮山 宏（第28代東京大学総長）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

No. 1384 2009年3月13日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学本部広報グループ
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>